



# スカパーJSAT ガイド

2025年3月版



1. スカパー J S A T 概要
2. 経営戦略
3. 宇宙事業
4. メディア事業
5. サステナビリティ

# 会社概要



会社名	株式会社スカパーJ S A Tホールディングス
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR
設立	2007年4月2日
資本金	10,172百万円（2024年7月19日現在）
取引市場	東京証券取引所プライム市場 （証券コード 9412）



持株会社 | (株)スカパー J S A Tホールディングス  
(東証プライム上場：9412)

中核事業会社 | スカパー J S A T (株)  
(100%子会社)

宇宙事業

メディア事業



J S A T MOBILE  
Communications (株)

J S A T  
International Inc.

(株)スカパー・  
ピクチャーズ

(株)スカパー・  
ブロードキャスティング

(株)スカパー・  
エンターテイメント

持分法適用  
関連会社

(株)Space Compass

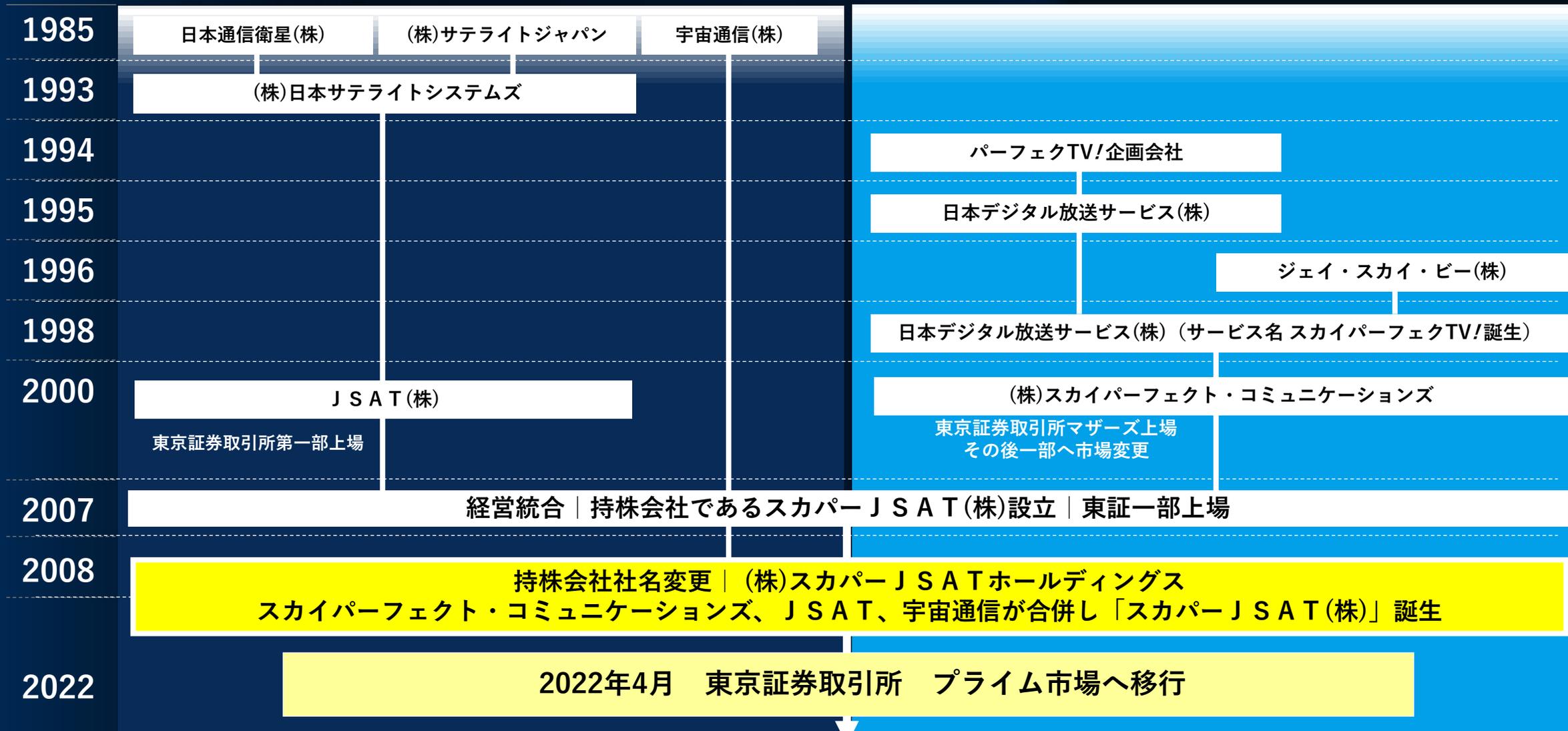
スカパー!

# スカパーJ S A Tの歴史 ～宇宙ビジネス35年の実績～



## 宇宙事業

## メディア事業



# 事業概要



## 宇宙事業

### 衛星通信

アジア最大級・国内唯一  
35年の運用実績



衛星保有機数

# 17 機

(2024年3月末時点)

## メディア事業

### 有料多チャンネル放送

日本最大級のチャンネル数  
放送/配信ノウハウ

スカパー!

加入件数

# 約274万件

(2024年3月末時点)

(2023年度通期実績)

■…宇宙  
■…メディア

### 連結営業収益

# 1,218 億円

宇宙……49%  
メディア…51%

### 連結営業利益

# 265 億円

宇宙……84%  
メディア…16%

### 連結当期純利益

# 177 億円

宇宙……86%  
メディア…14%

※親会社株主に帰属する当期純利益構成比は、セグメント間取引および調整額を含んでいます



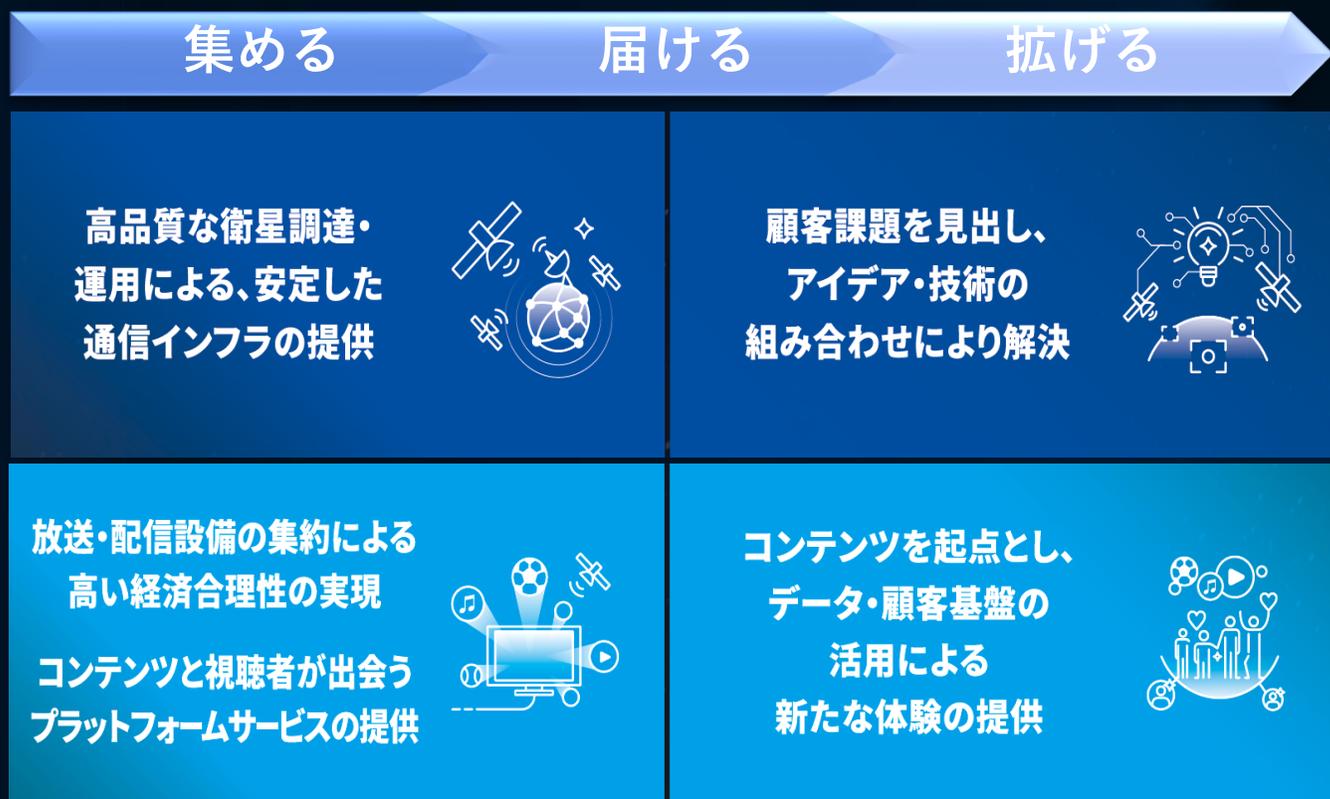
1. スカパー J S A T 概要
2. 経営戦略
3. 宇宙事業
4. メディア事業
5. サステナビリティ



# 経営戦略

- 2030年に向けた成長の道筋を描く、価値創造ストーリー
- 事業ビジョン実現に最適な経営資源（資本と人）を配分

経営資源



既存事業の収益性強化

新領域事業の展開



宇宙と地球のあらゆる情報・感動をつなげる

**宇宙事業ビジョン**

すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し超スマート社会の実現に貢献

**メディア事業ビジョン**

人と人、企業、社会をつなぐプラットフォームとして多様で創造性豊かな社会の実現に貢献

2030年  
当期純利益目標  
**250億円超**

宇宙事業 210億円  
メディア事業 50億円



# 成長投資

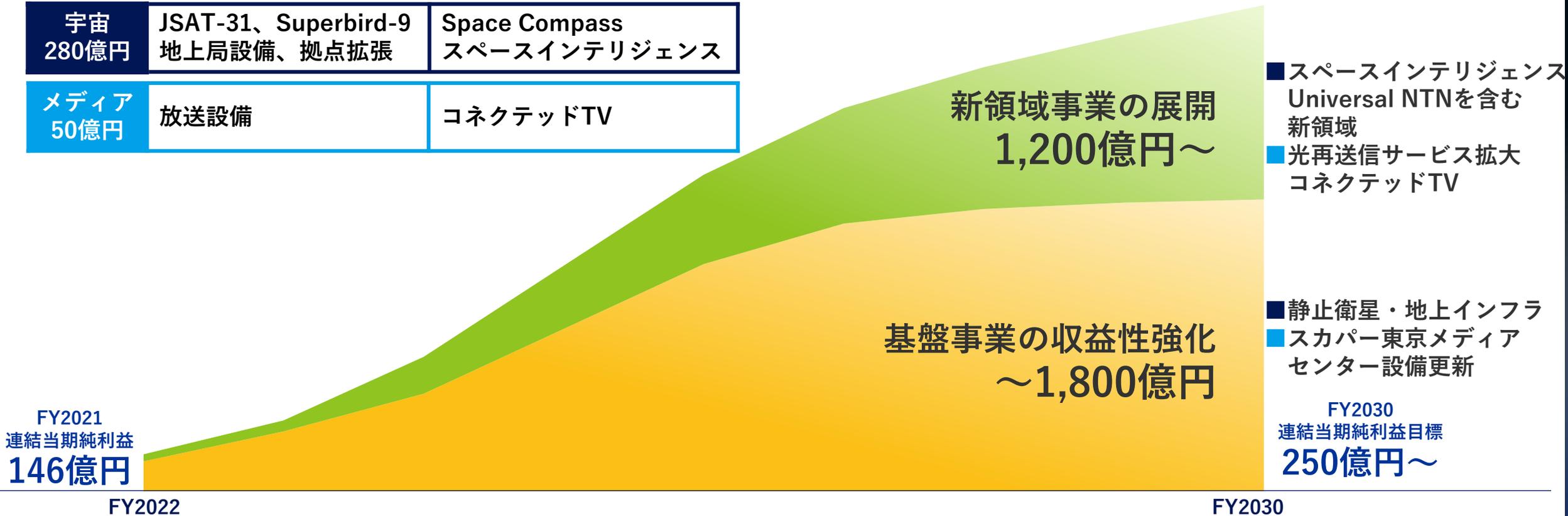
- 2030年度以降の持続的な成長に向け積極的に投資を推進
- 2024年度上期は180億円（基盤100億円＋新領域80億円）の投資実行済み

## FY2024投資計画

<b>330億円</b>	<b>基盤</b>	<b>新領域</b>
<b>宇宙 280億円</b>	JSAT-31、Superbird-9 地上局設備、拠点拡張	Space Compass スペースインテリジェンス
<b>メディア 50億円</b>	放送設備	コネクテッドTV

## FY2022～FY2030投資累計

**3,000億円**

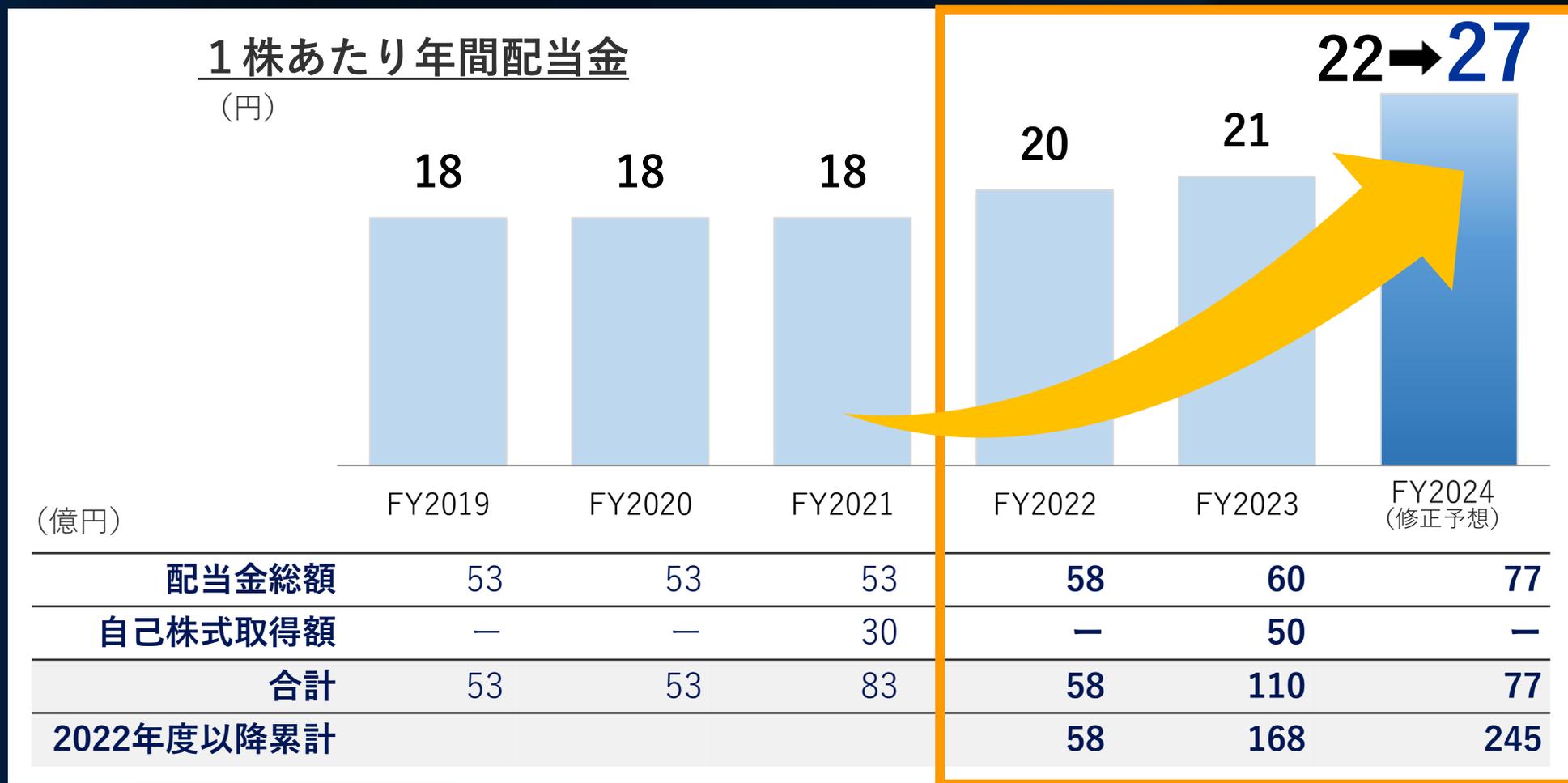


\*上記投資累計図はFY2023までは実績値



# 株主還元

- **2022年度からの5年間は、基礎収益力向上のための投資期間と位置付け安定配当に加え、機動的な自己株式取得とあわせて400億円の株主還元を行う**





1. スカパー J S A T 概要

2. 経営戦略

3. 宇宙事業

- ・ 概要

- ・ 成長性 (通信、地球観測、安全保障、新領域)

4. メディア事業

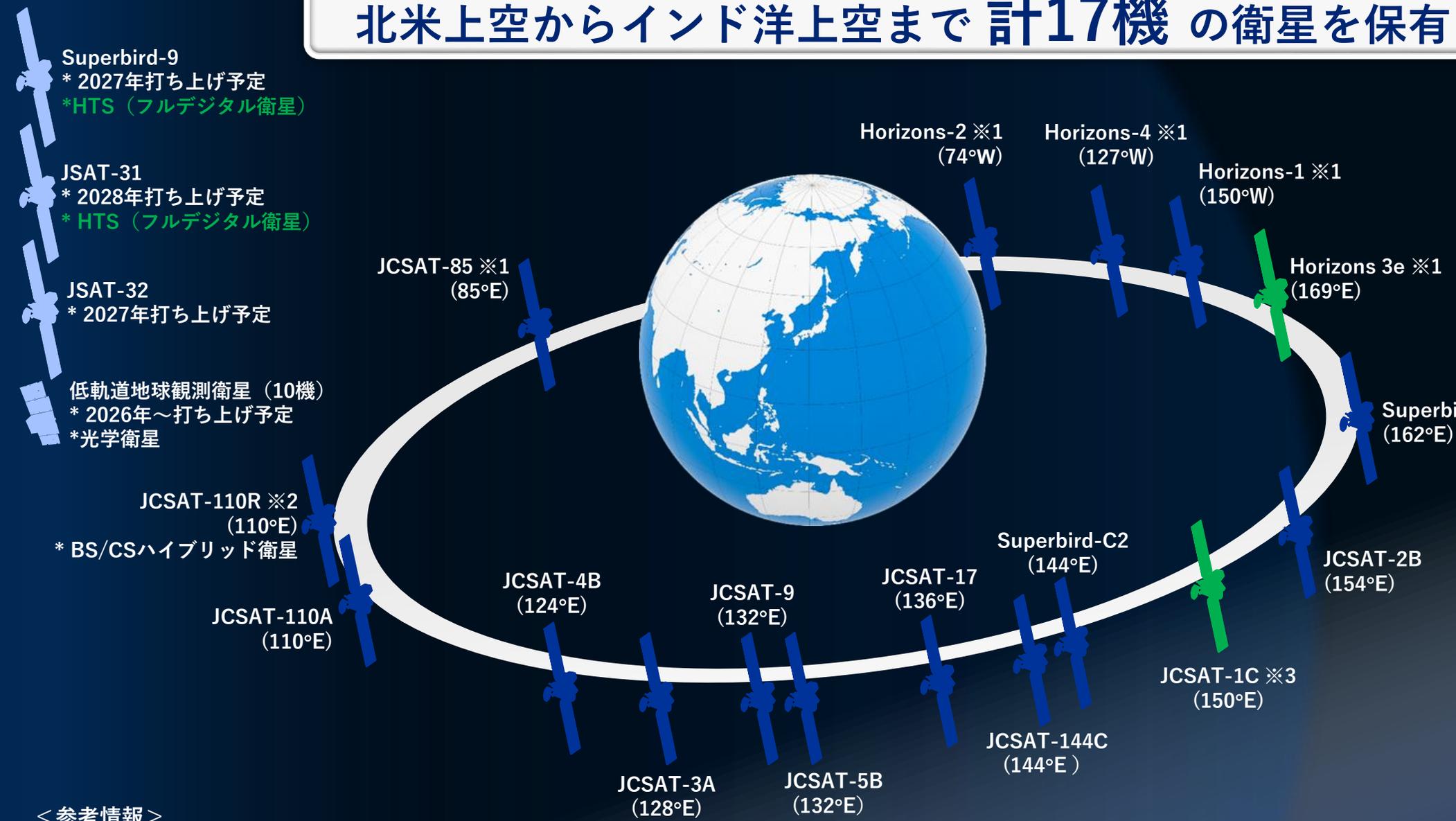
5. サステナビリティ



# 主要設備：衛星フリート

北米上空からインド洋上空まで 計17機 の衛星を保有

(2025年3月末時点)



- GEO\*通信衛星  
\*GEO：静止軌道
- GEO通信衛星 (HTS)
- GEO通信衛星 打ち上げ予定
- LEO\*地球観測衛星 打ち上げ予定  
\*LEO：低軌道

※1 Intelsat社との共同衛星  
 ※2 BSAT社との共同衛星  
 ※3 Kacific社との共同衛星

<参考情報>  
 ・2024年3月末時点の契約バックログは2,098億円

# 静止衛星の調達から運用まで



## 1 事前検討

- ・ 軌道位置の確保
- ・ 需要予測

## 2 衛星の仕様検討

- ・ サービスエリア
- ・ 搭載周波数
- ・ 中継機数

## 3 発注・製造

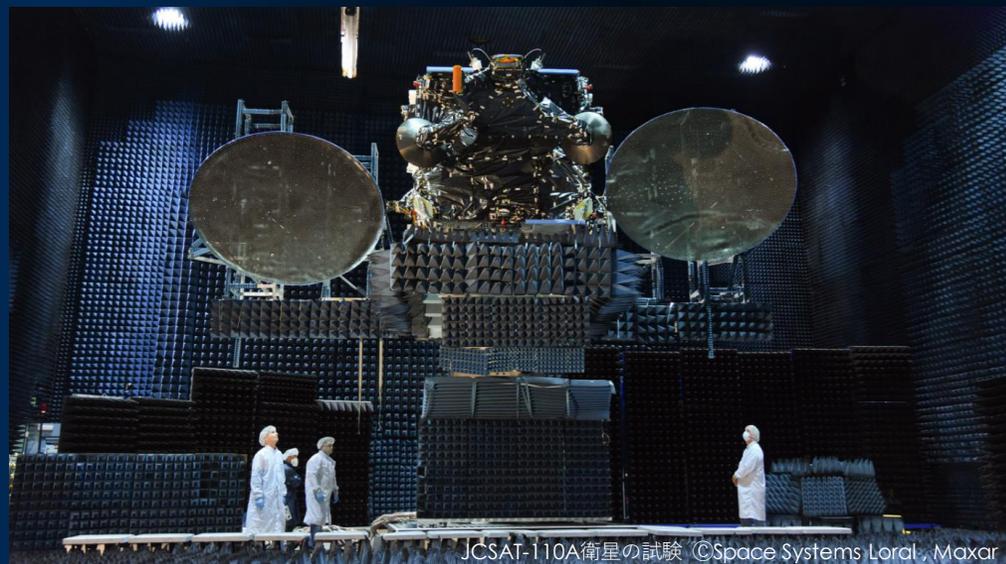
- ・ メーカー選定
- ・ 工程管理および性能評価を実施

## 4 静止軌道への投入

- ・ 軌道上で性能試験実施

## 5 運用

- ・ 衛星監視・制御
- ・ 通信サービス提供



衛星調達コスト200~500億円程度

製造費

打ち上げ費

保険料

2~3年

工程ごとに、都度分割払い

償却開始

設計寿命15年  
定額法で償却

建設仮勘定

固定資産



# 主要設備：衛星管制・通信運用拠点

衛星や通信回線の運用を24時間365日体制で実施

群馬テレポートセンター



北海道ネットワーク管制センター



副局：  
山口ネットワーク管制センター



副局：  
茨城ネットワーク管制センター



主局：  
横浜衛星管制センター



沖縄ネットワーク管制センター



# 宇宙事業の収益構成



2023年度営業収益 **647** 億円

## 通信関連事業



### 国内衛星通信分野

衛星通信の特徴である耐災害性を活かし、官公庁や電力・ガス等の公共インフラ企業にBCP対策として通信回線を提供。その他、携帯電話基地局向けバックホール回線等を提供。長期契約等による安定した事業地盤。

営業収益構成比

**48%**



### グローバル・モバイル分野

海外の官公庁やインフラ企業等へ通信回線を提供。モバイル分野では、航空機・船舶向けに通信回線を提供。特に航空機Wi-Fi需要が旺盛であり、需要が見込まれる分野。

**27%**

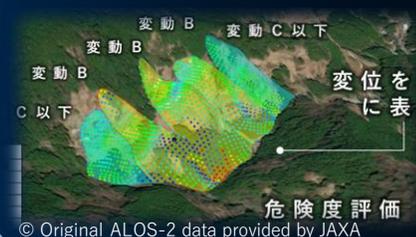


### 国内衛星放送分野

スカパー！のプラットフォームサービスを利用するチャンネル運営事業者へ衛星回線を提供。

**21%**

## スペースインテリジェンス事業



地球観測衛星から得られる画像や位置情報などの様々なデータを活用したサービスを提供。官公庁における安全保障需要や防災・減災分野に加え、新たな市場の開拓に取り組んでおり、成長を期待する分野。

**4%**

# 事業領域：通信関連事業（国内衛星通信分野）



## ■ 官公庁・自治体、企業向け 堅固な通信基盤を提供

- 官公庁・自治体、電力会社等への衛星通信サービス
- 重要拠点間通信、災害対策・BCP用バックアップ回線

## ■ 携帯キャリア向け 携帯基地局バックホール回線を提供

- 携帯電話基地局と基幹網を結ぶ衛星回線の需要増
- 離島や山間僻地の衛星バックホール回線
- 災害対策としての携帯移動基地局向け衛星回線

## ■ 衛星運用・管制受託サービス

- 防衛省、JAXA、QPS研究所の衛星運用等

## ■ 地上局サービス

- 低軌道衛星向け地上局サービス
- JAXA向け近地球追跡ネットワークサービス（サービス提供準備中）



災害現場の携帯移動基地局



横浜衛星管制センター内管制室

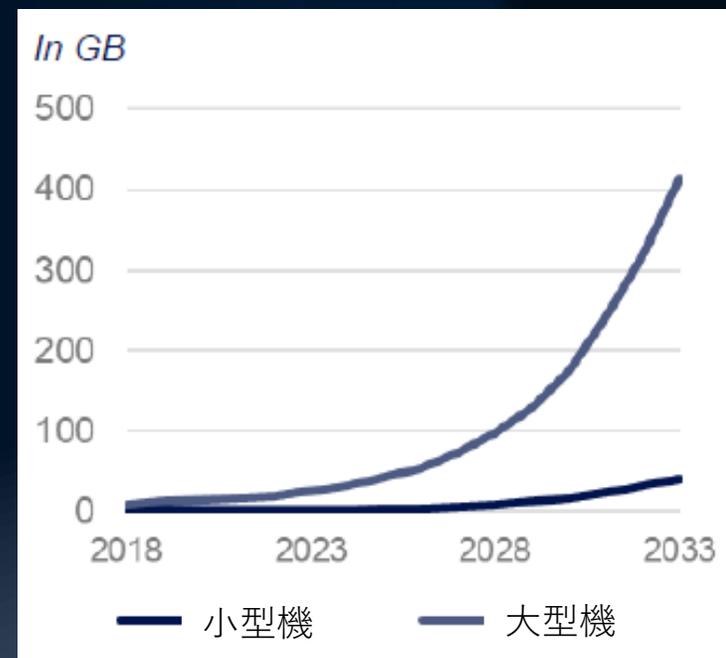
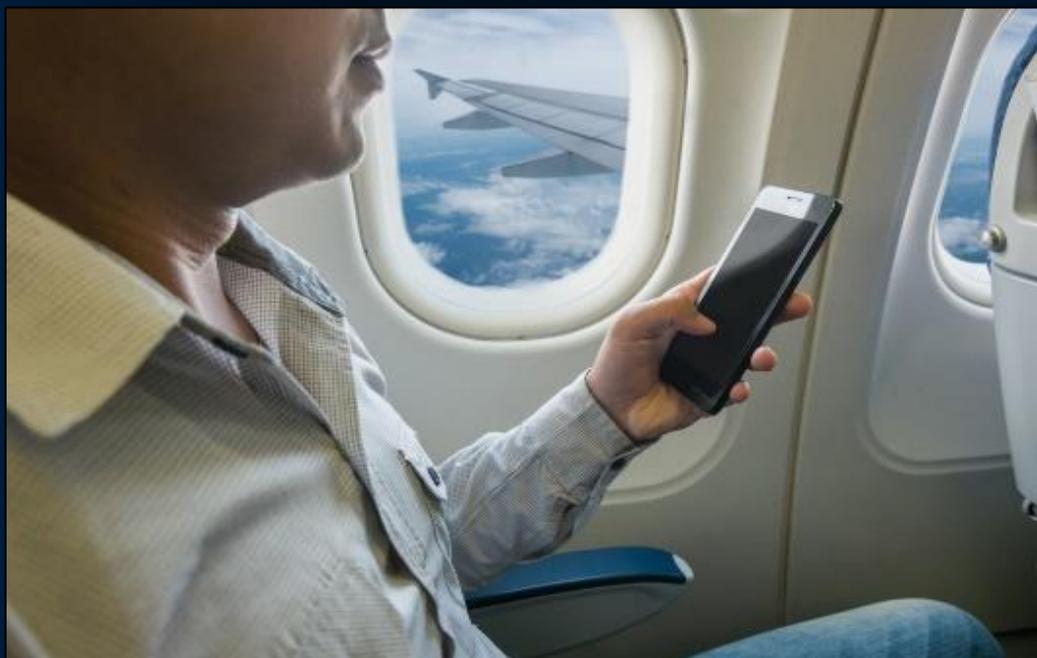
## 事業領域：通信関連事業（グローバル・モバイル分野）

### ■ アジア・太平洋、北米を中心にグローバル事業展開

- 東南アジアでの衛星通信需要が拡大
- Intelsatと共同でHorizonsシリーズ衛星保有
- ワシントンD.C.、シンガポール、ジャカルタの拠点を中心に営業活動を推進

### ■ 航空機・船舶向け ブロードバンド回線を提供

- 機内Wi-Fiの利用拡大に伴うデータ量の増加により、需要が拡大



# 事業領域：スペースインテリジェンス事業



- 地球観測衛星から得られる画像や位置情報など、さまざまなデータを活用したサービスを提供

衛星製造  
オペレーション

地球局・データ

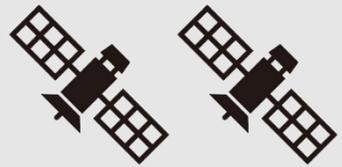
VAR (Value-Added-Reseller)

エンド  
ユーザー



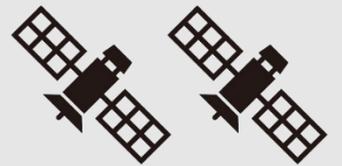
パートナーシップ推進・事業領域拡大

地球観測衛星\*



光学

SAR



電波監視 Hyperspectral



データ収集  
データ伝送



AI 技術



データベース

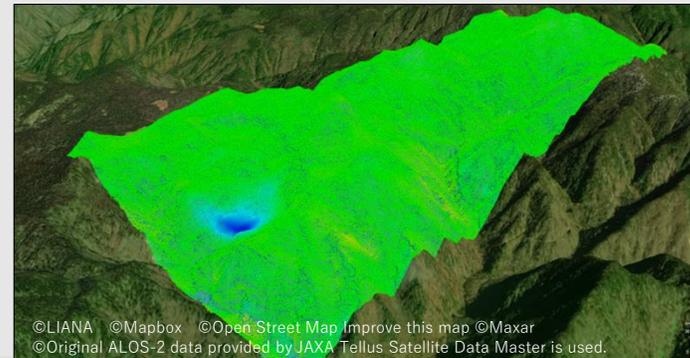


外部データ  
天気, 経済, 交通  
SNS情報など

画像・データ



アプリケーション解析・分析 →p.32



政府  
公共事業  
民間企業



\*地球観測技術の種類→p.68



1. スカパー J S A T 概要

2. 経営戦略

3. 宇宙事業

- ・ 概要

- ・ **成長性** (通信、地球観測、安全保障、新領域)

4. メディア事業

5. サステナビリティ

# 宇宙事業ビジョン



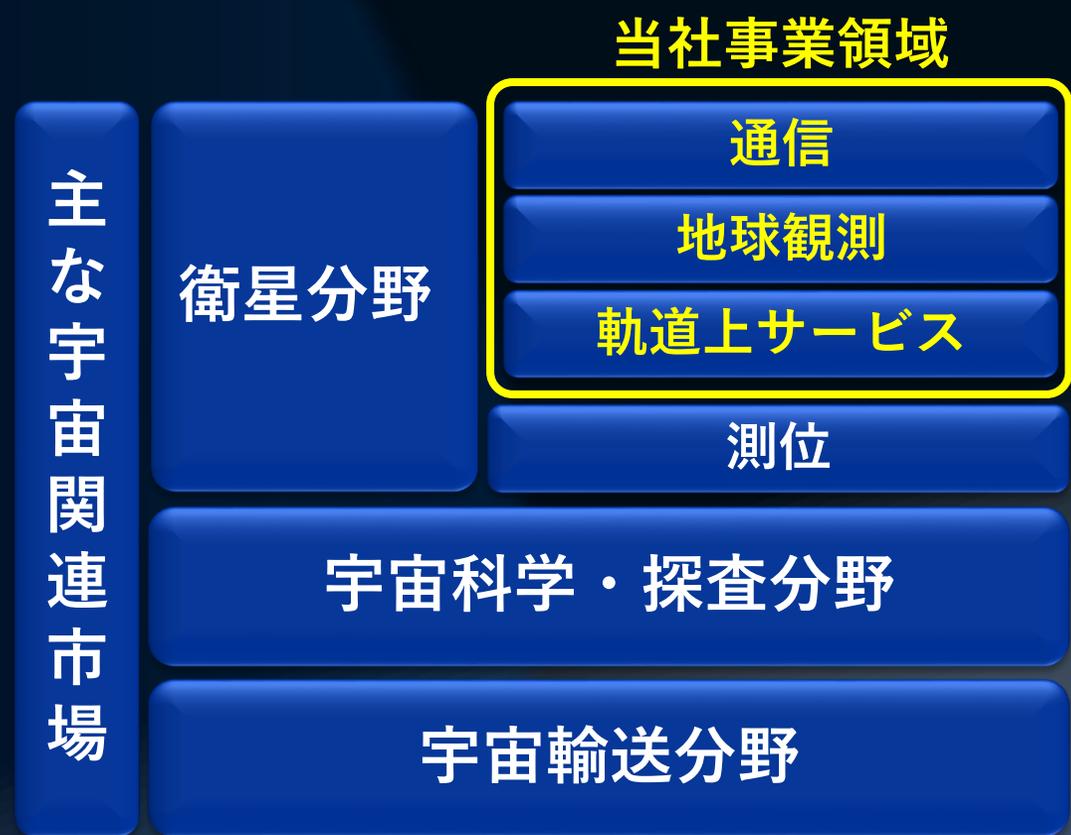
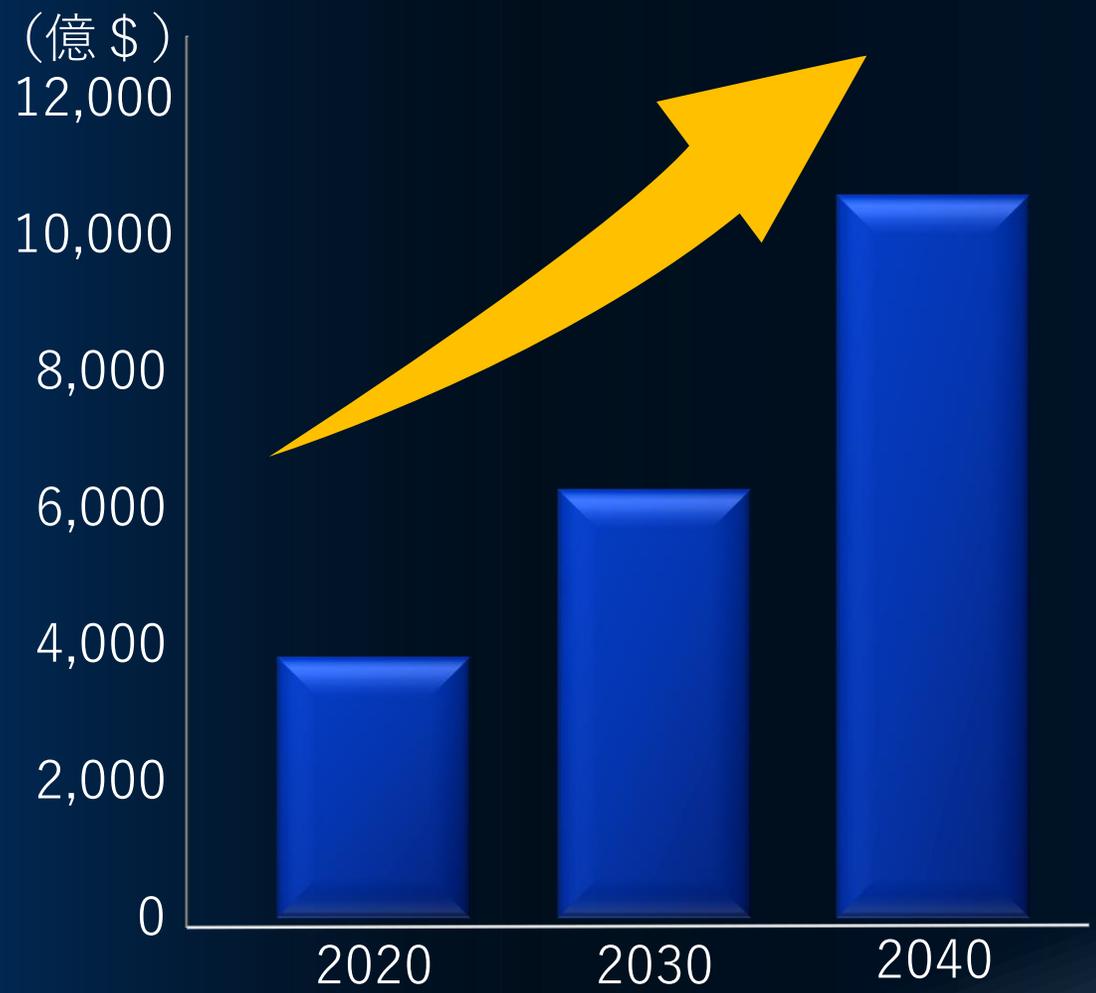
すべての空間を対象とした革新的な通信ネットワーク及び地球規模のデータ収集ネットワークを構築し、超スマート社会の実現に貢献する





# 宇宙産業の市場規模予測

■ 宇宙産業の市場規模は2040年までに**150兆円**規模に拡大 ※USD1=150円で計算



※内閣府 宇宙技術戦略では、大きく3分野に分類

経済産業省「国内外の宇宙産業の動向を踏まえた経済産業省の取組と今後について」を元に当社にて作成  
出典：2020年7月 Morgan Stanley <https://www.morganstanley.com/ideas/investing-in-space>



1. スカパー J S A T 概要

2. 経営戦略

3. 宇宙事業

- ・ 概要

- ・ 成長性 (通信、地球観測、安全保障、新領域)

4. メディア事業

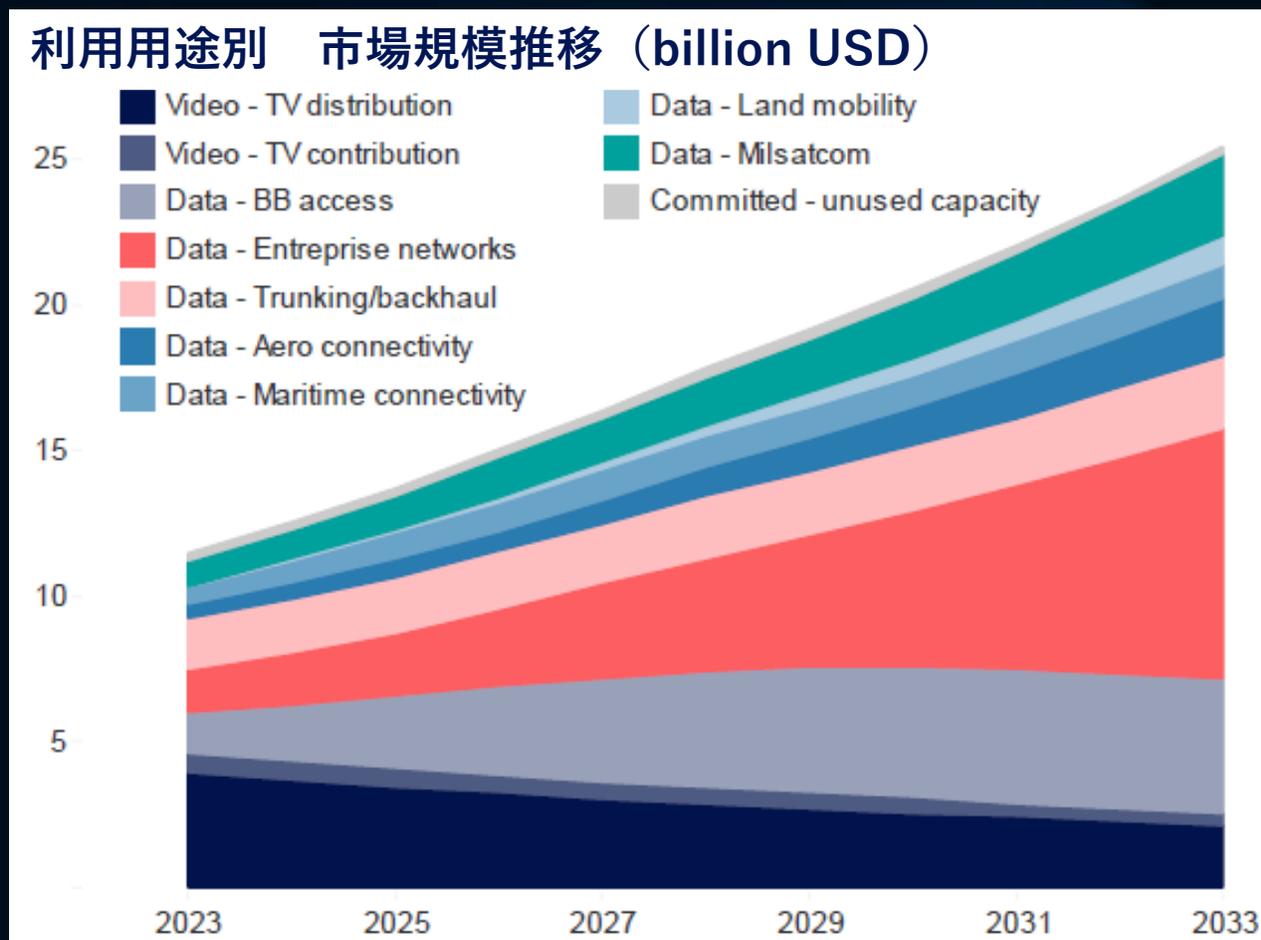
5. サステナビリティ



# 衛星通信市場予測

- 世界全体の衛星通信市場規模は、2033年には現在の倍の**約4兆円に拡大**
- **企業内通信、航空機・船舶等の移動体、安全保障等**の需要が拡大

※USD1=150円で計算



出典：Euroconsult Satellite connectivity and Video Market 2024/10

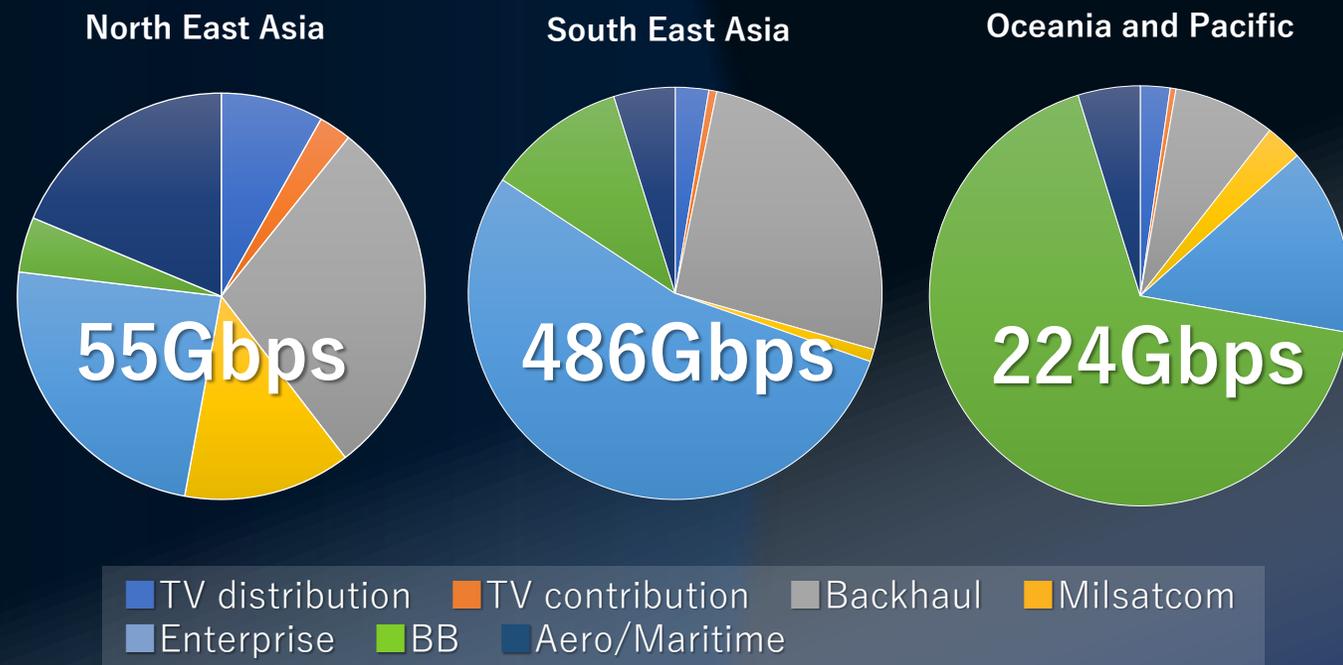
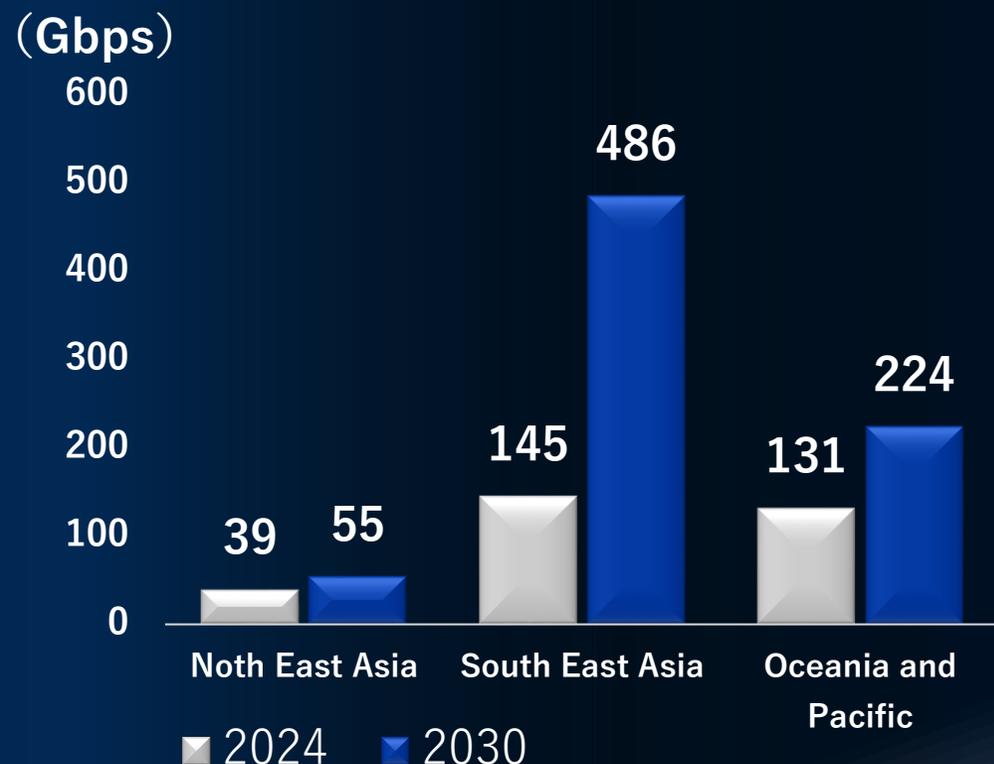
# 衛星通信市場予測：アジア・太平洋地域



- アジア・太平洋地域での需要が大きく拡大
- 東南アジアの需要は、現在の100Gbps程度から2030年には約500Gbpsに急増

アジア・太平洋地域のGEO通信需要予測  
(エリア別)

アジア・太平洋地域GEO通信需要予測  
(2030年／エリア・利用用途別)





## 衛星通信は**Universal NTN**により新たな世界へ

- ✓ 2020年代後半、GEO+Non-GEO（含むHAPS）のUniversal NTN構築
- ✓ 主なターゲット：国内顧客、移動体（航空機、船）、海外市場

### 競争優位性

### 成長戦略/注力領域

#### ● 35年の衛星通信事業実績

- ・衛星調達・運用の技術・ノウハウ
- ・安定した日本国内の顧客基盤
- ・通信設備：国内7拠点、海外24拠点

#### ● アジア・太平洋地域における競争力

- ・通信需要に応えられる軌道権益と実機保有
- ・衛星オペレータとのパートナーシップ

#### ● グローバルアライアンス構築推進、販売力強化

- 衛星運用受託サービスの拡大
- テレポート/地上サービスビジネス強化
- 安全保障需要の取り込み

# 目指す世界：Universal NTN



- 異なる高度の静止衛星、非静止衛星、HAPSを組み合わせた多層的なネットワークであらゆる空間に通信を提供しながら「高速・大容量化、利便性」を向上させる

## スカパーJSAT 次世代静止衛星フリート

→p.27

GEO



通信容量100Gbps超

Non-GEO

パートナー静止衛星

## グローバルアライアンス

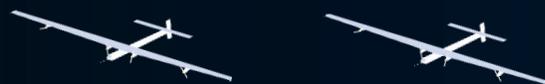
→p.65,68



HAPS

## Space Compass (AALTO)

→p.42



パートナー非静止衛星



# Universal NTNの実現に向けて



- 100Gbps超の次世代静止衛星フリートを実現のために  
大容量のフルデジタル衛星\*を2機（Superbird-9、JSAT-31）調達

\*フルデジタル衛星とは→p.66

- 既存顧客基盤に加え、国内外でのさらなる帯域拡販により収益拡大を目指す



**移動体**

Superbird-9は既に航空機向け回線提供契約を締結済み

**アジア・太平洋地域**

2030年に向けて急拡大する需要を獲得



1. スカパー J S A T 概要

2. 経営戦略

3. 宇宙事業

- ・ 概要

- ・ 成長性 (通信、地球観測、安全保障、新領域)

4. メディア事業

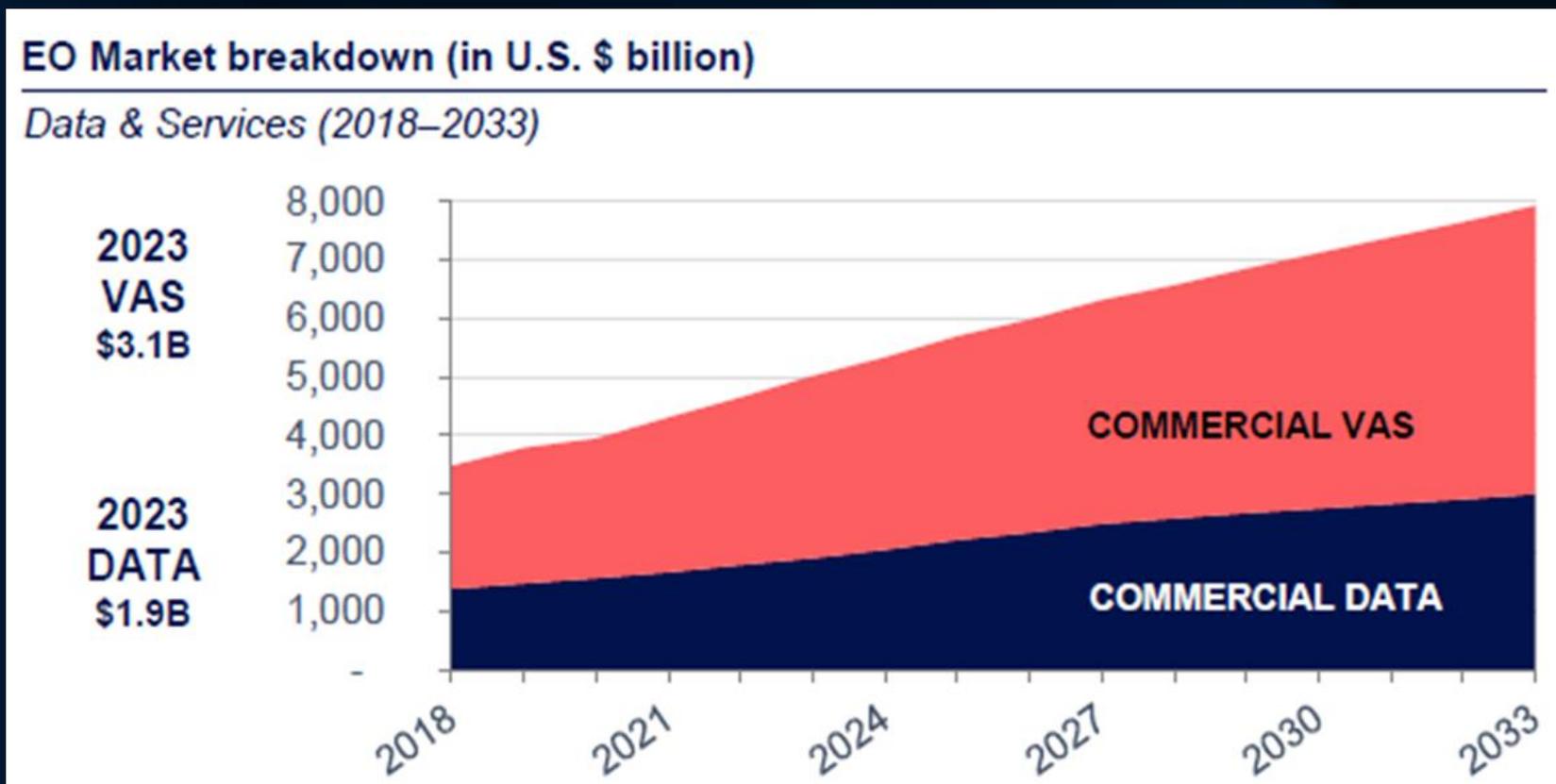
5. サステナビリティ



# 地球観測市場予測

- 気候変動や安全保障、経済社会の環境変化等を受け**地球観測データの重要性が向上**
- 市場規模は2030年に**約1兆円を突破**（2023年は約7,500億円）

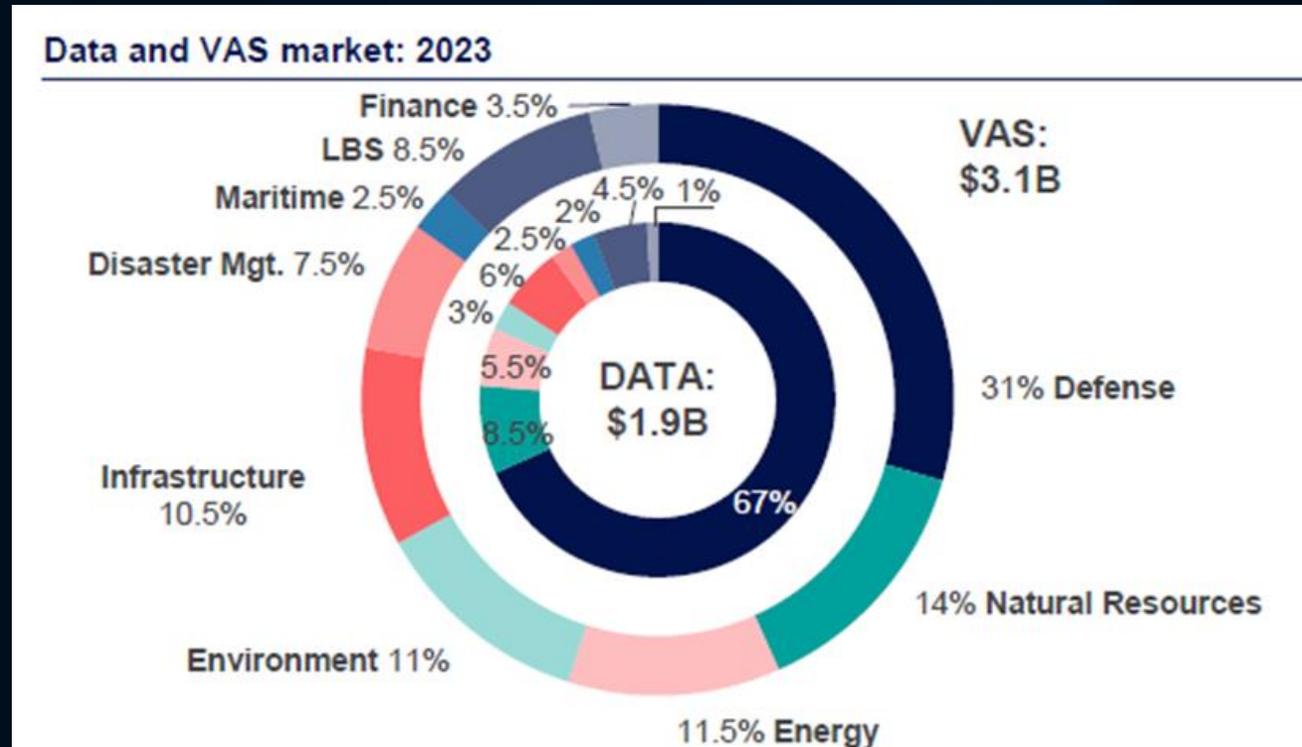
※USD1=150円で計算



出典：Earth Observation Data and Services Market©2024 Euroconsult

# 地球観測市場予測：利用用途別

- 地球観測データは安全保障を中心に需要増加
- 地球観測データを活用して地理空間情報とAI分析を組み合わせた付加価値サービス（VAS）は民需を中心に需要増加



出典：Earth Observation Data and Services Market©2024 Euroconsult



## ①安全保障需要の取り込み ②民需マーケット開拓

### 競争優位性

- 独自の解析技術をベースとした付加価値サービス
- 衛星通信事業者としての技術・ノウハウ
  - ・ Space Compass光データリレー等、通信との連携
  - ・ 川上～川下までトータルでの事業展開

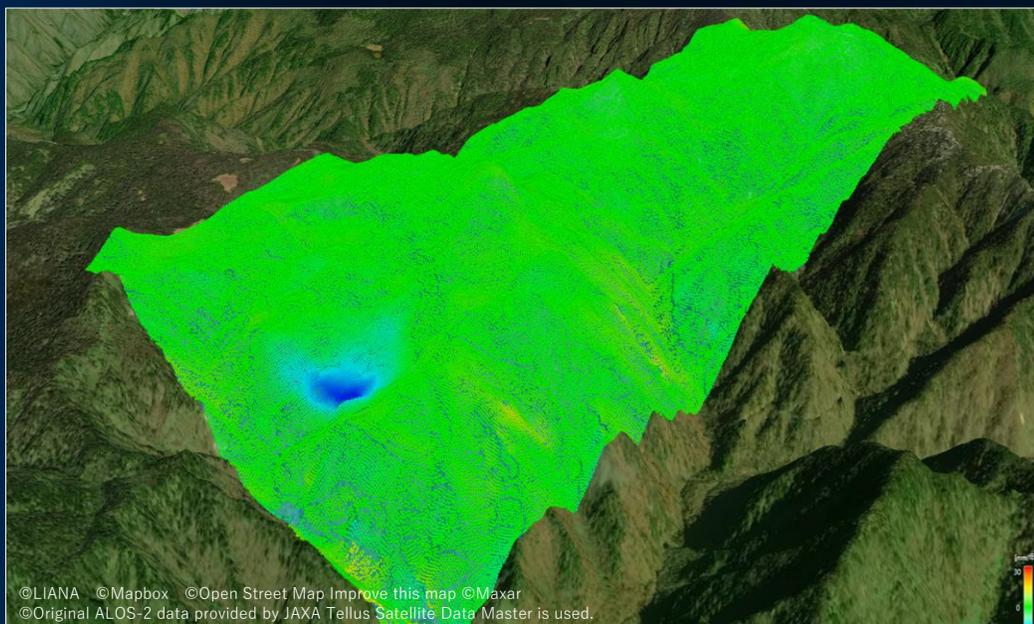
### 成長戦略/注力領域

- 川上強化
  - ・ 衛星保有  
(低軌道衛星コンステレーション)
  - ・ パートナーとの連携
  - ・ 地球局設備拡充
- 商品多角化によるソリューション強化
- 資本提携・協業による販売力向上
- データアナリスト等、専門人財の獲得

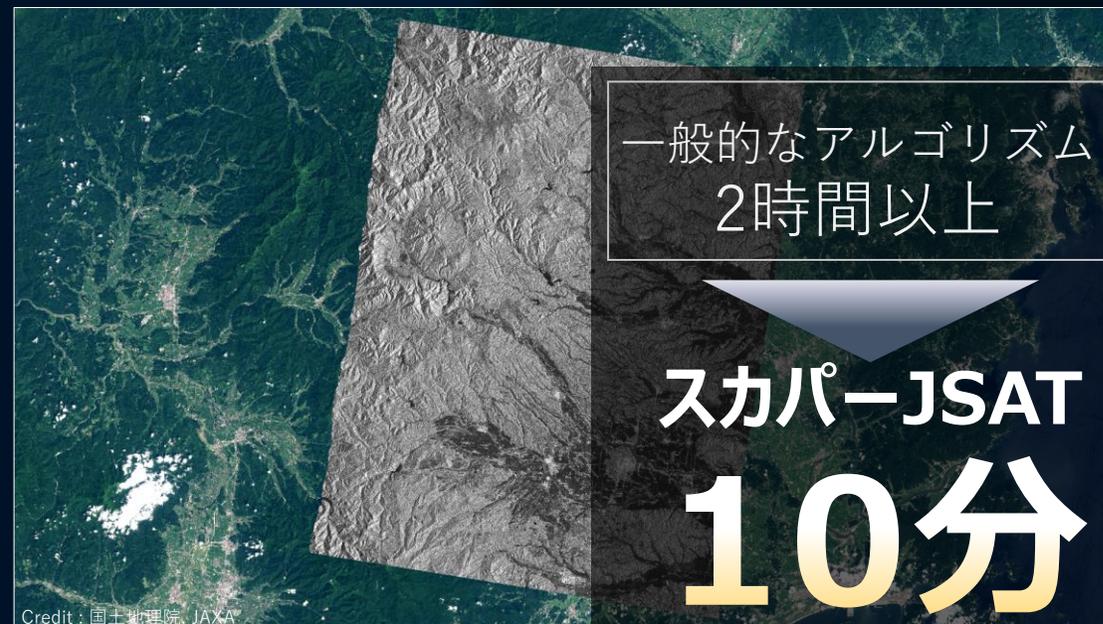
# 自社開発アルゴリズムによる優位性



- ユーザー目線で専門知識不要なUX開発
- 独自の解析技術を活かした競争力のある「付加価値サービス」を提供



斜面/インフラモニタリング



浸水被害情報解析

迅速な情報提供

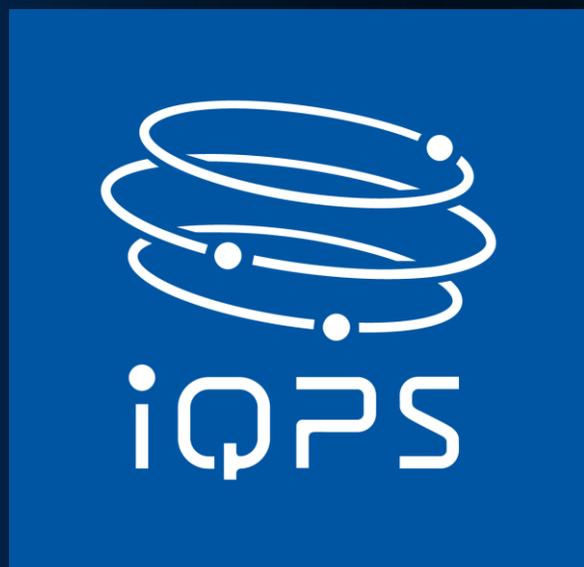
競争力

低コスト化

# QPS研究所との連携強化



- 小型SAR衛星コンステレーション活用を促進



## QPS研究所

高精細小型レーダー衛星「QPS-SAR」を開発

東証グロース市場に上場

HP : <https://i-qps.net/>





## 低軌道地球観測事業に本格参入

- 衛星コンステレーションの自社構築・保有に向け約400億円の投資を決定
- 通信から非通信へビジネスフィールドを拡大
- 世界最高水準の30cm解像度を誇る次世代光学観測衛星10機をPlanet社より調達

FY2030  
営業収益目標

約230億円

FY2024  
営業収益  
見込み  
約40億円

スペースインテリジェンス事業の収益拡大



Photo credit: Planet Labs PBC  
次世代光学観測衛星Pelican





1. スカパー J S A T 概要

2. 経営戦略

3. 宇宙事業

- ・ 概要

- ・ 成長性 (通信、地球観測、安全保障、新領域)

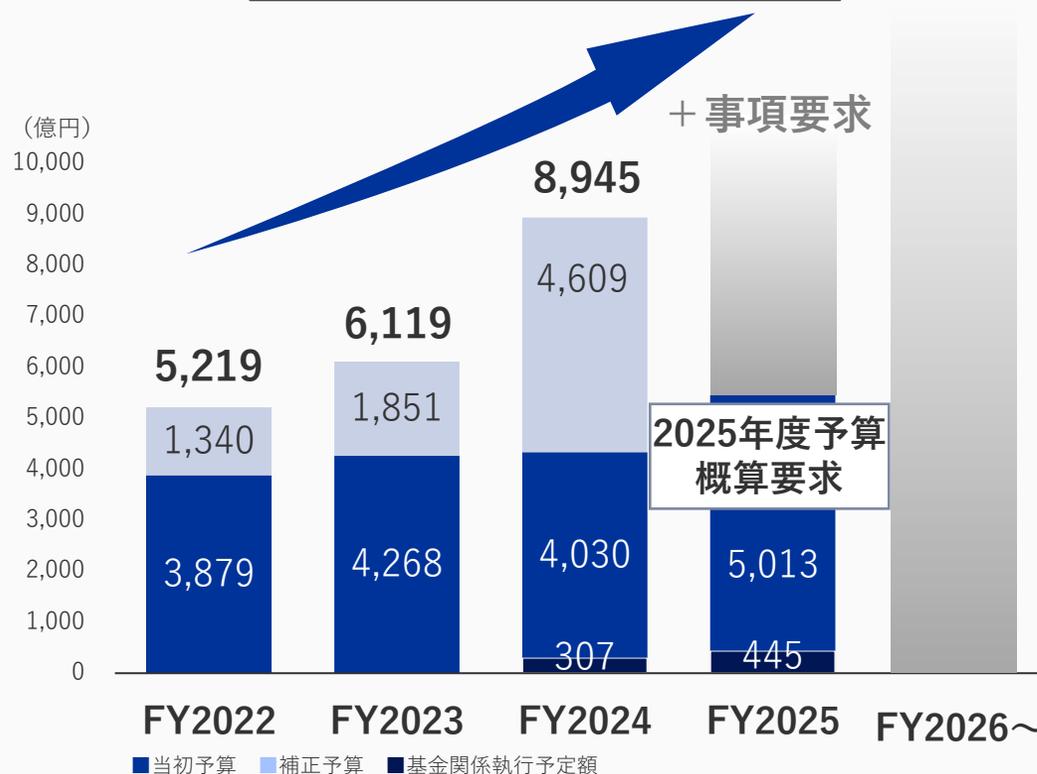
4. メディア事業

5. サステナビリティ

# 日本の宇宙関連予算増加

- 政府の宇宙関連予算は増加し、事業機会が拡大
- 宇宙ビジネス支援を目的とした10年で1兆円規模の「宇宙戦略基金」が今後も増加することを期待

政府の宇宙関連予算推移



出典：FY2025予算概算要求までのデータは内閣府「令和6年度当初予算案および令和5年度補正予算における宇宙関連予算について」同「令和7年度概算要求における宇宙関連予算について」から転記して当社にて作図 <https://www8.cao.go.jp/space/budget/yosan.html>



## 宇宙安全保障をめぐる日本政府の動向

- 2023年度から5年間の防衛費総額43兆円、うち宇宙関連1兆円と決定
- 2024年度の防衛省宇宙関連予算は1,077億円

<2022年12月 閣議決定>

防衛  
三  
文  
書

国家安全保障戦略

国家防衛戦略

防衛力整備計画

<宇宙安全保障に関わる方針>

- ① 宇宙利用の強化
- ② 宇宙領域の安定的利用に対する脅威への対応
- ③ 宇宙産業の支援・育成

出典：<https://www.cas.go.jp/jp/siryou/221216anzenhoshou.html>

<2023年6月 閣議決定>

宇宙基本計画

- ① 宇宙空間の安定的利用の確保
- ② 宇宙の安全保障分野における活用の強化
- ③ 宇宙協力等を通じた日米同盟等の強化

出典：<https://www8.cao.go.jp/space/plan/keikaku.html>



# 安全保障領域における実績

- 宇宙利用の拡大に伴い、宇宙安全保障産業の成長が見込まれる
- 新たな需要取り込みと積極的な投資により、事業成長と社会貢献を目指す



## 安全保障領域におけるさらなる貢献



- 日本の民間宇宙ビジネスを35年牽引してきた実績を活かし  
従来の通信回線提供等に加え、非通信分野での貢献を目指す

静止民間SSA衛星

低軌道地球観測  
コンステレーション

静止通信衛星

陸海空すべての領域に通信回線を提供中  
今後のさらなる需要拡大に対応

衛星画像販売が大幅に拡大  
光データリレーネットワークの構築



1. スカパー J S A T 概要
2. 経営戦略
3. 宇宙事業
  - ・ 概要
  - ・ 成長性 (通信、地球観測、安全保障、開拓領域)
4. メディア事業
5. サステナビリティ

# 開拓領域の戦略



- 魅力度・適社度で将来の大きな収益源となる新規事業を見極め
- 競争優位性を確保できる領域に対し、経営資源を集中投下、世界に先行した魅力あるサービスで早期事業化

## 競争優位性

- 日本の民間宇宙ビジネスを35年牽引してきた実績
- 新しい技術をビジネスにつなげ、社会に実装する事業化力

## 取り組み分野

### Space Compass

- ・宇宙DC（宇宙データセンタ）
- ・宇宙RAN（HAPS）

### 量子暗号鍵配信

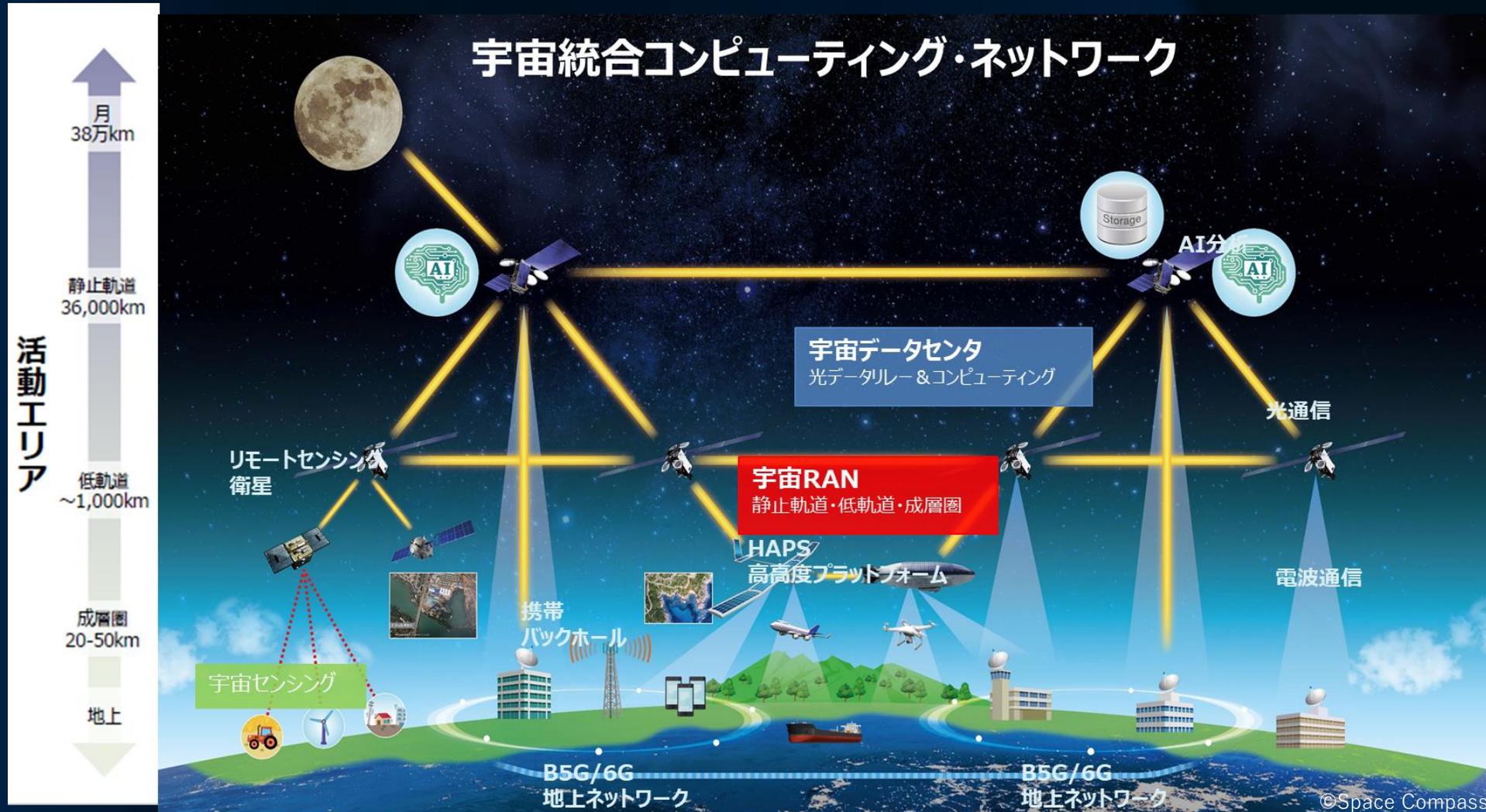
### 宇宙状況把握（SSA）

### Orbital Lasers

### 月通信 等

# Space Compassの挑戦

- NTTとの合併会社Space Compassによる、新たな宇宙インフラの構築
- 宇宙データセンタ事業および宇宙RAN事業を推進

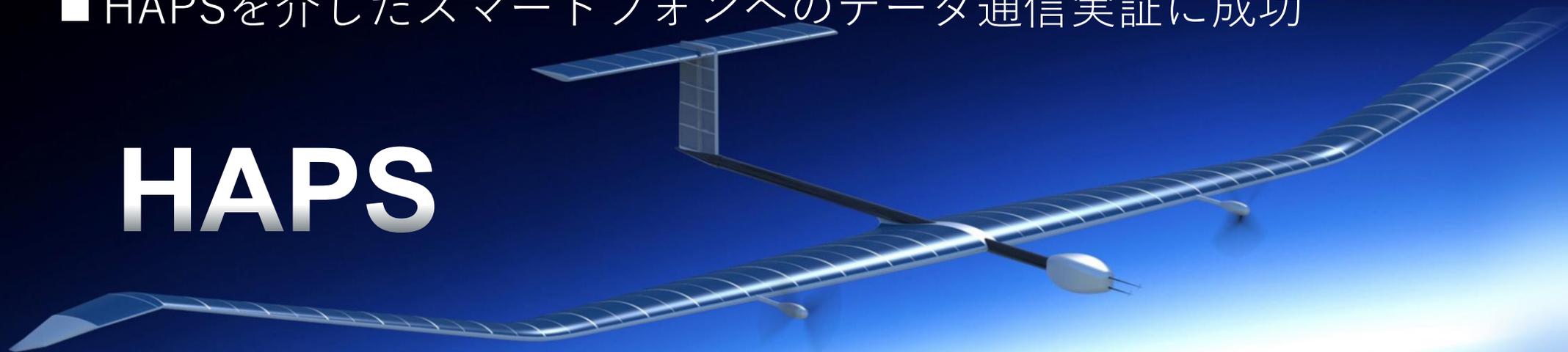




# Space Compassの挑戦：宇宙RAN事業（HAPS\*）

- 成層圏プラットフォームの確立のため、AALTO社へ出資
- HAPSによる通信サービスの2026年国内提供開始、グローバル展開を目指す
- HAPSを介したスマートフォンへのデータ通信実証に成功

# HAPS



# Orbital Lasersのミッション



- スカパーJSAT発のスタートアップとして、2024年設立
- 高度な宇宙用レーザー技術を活用した事業を展開

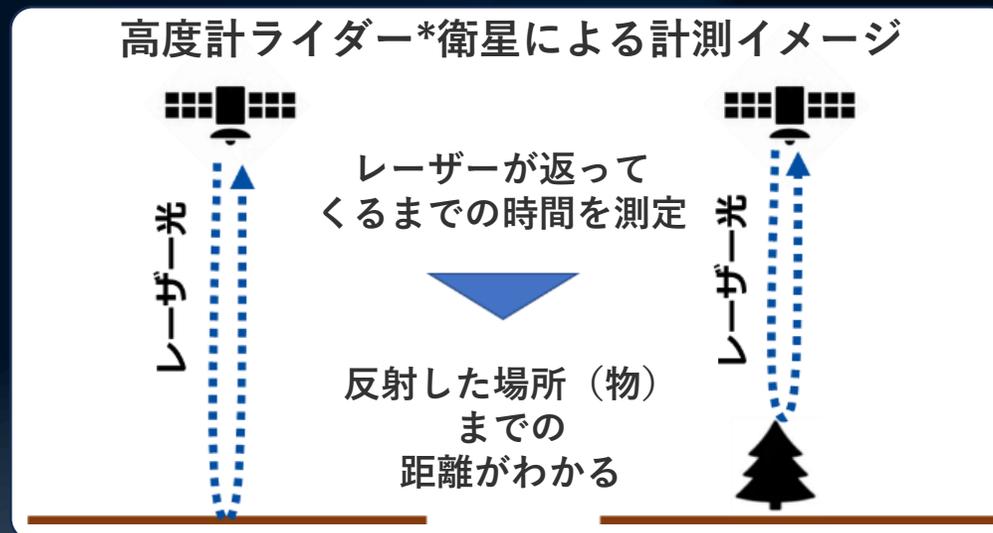
## ①スペースデブリ除去事業

高度な宇宙用レーザー技術を用いて、スペースデブリを除去  
遠隔で安全かつ正確にデブリの軌道や運動を制御することが可能

## ②衛星LiDAR\*（ライダー）事業

\*LiDAR : Light Detection and Ranging

独自の小型かつ高効率なレーザー技術を応用した小型ライダー衛星の開発を計画  
将来的にコンステレーション構築・運用を行うことで、世界中のあらゆる場所・対象の高度を高精度に計測  
計測データは、国土管理、防災・減災、都市開発、インフラモニタリングなどに活用





# 宇宙ビジネスの共創に向けて

- 宇宙スタートアップとの協業加速のため**100億円の投資枠**を設定



## 新たな宇宙ビジネス





1. スカパーJSAT概要
2. 経営戦略
3. 宇宙事業
4. **メディア事業**
  - ・ 概要
  - ・ 成長性
5. サステナビリティ

# メディア事業の収益構成



2023年度営業収益 **665**億円

**スカパー!**

## 放送

日本最大級の衛星有料多チャンネルプラットフォームとして顧客管理、加入者獲得プロモーション等を提供。チャンネル事業者/番組供給事業者からは業務手数料、加入者からは基本料を売上として計上。

営業収益構成比

**64%**



## FTTH（光再送信サービス）

光回線を経由した地上波/BS放送・FMラジオならびにスカパー！の再送信サービスを提供。今後もサービスエリア拡大による契約者増加とともに大型マンションでの一括導入等により、成長を期待する分野のひとつ。

**14%**



## その他

チャンネル事業者/番組供給事業者向けの、番組送出業務など衛星放送に付随するサービスを中心に、メディアセンターの設備やノウハウ等放送のアセットを活かし、映像制作会社や配信プラットフォーム等民間企業へ課題解決サービスを提供。

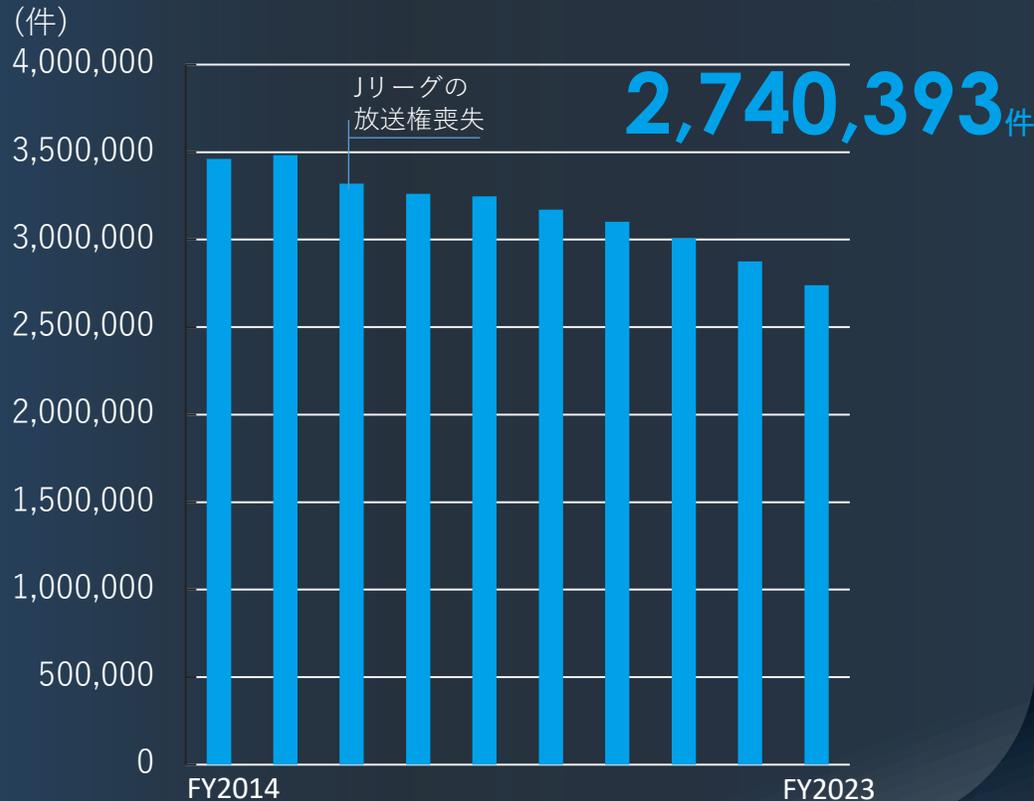
**22%**

# 顧客基盤の推移



## スカパー!

### 有料多チャンネル放送 累計加入件数（IC数）



## FTTH

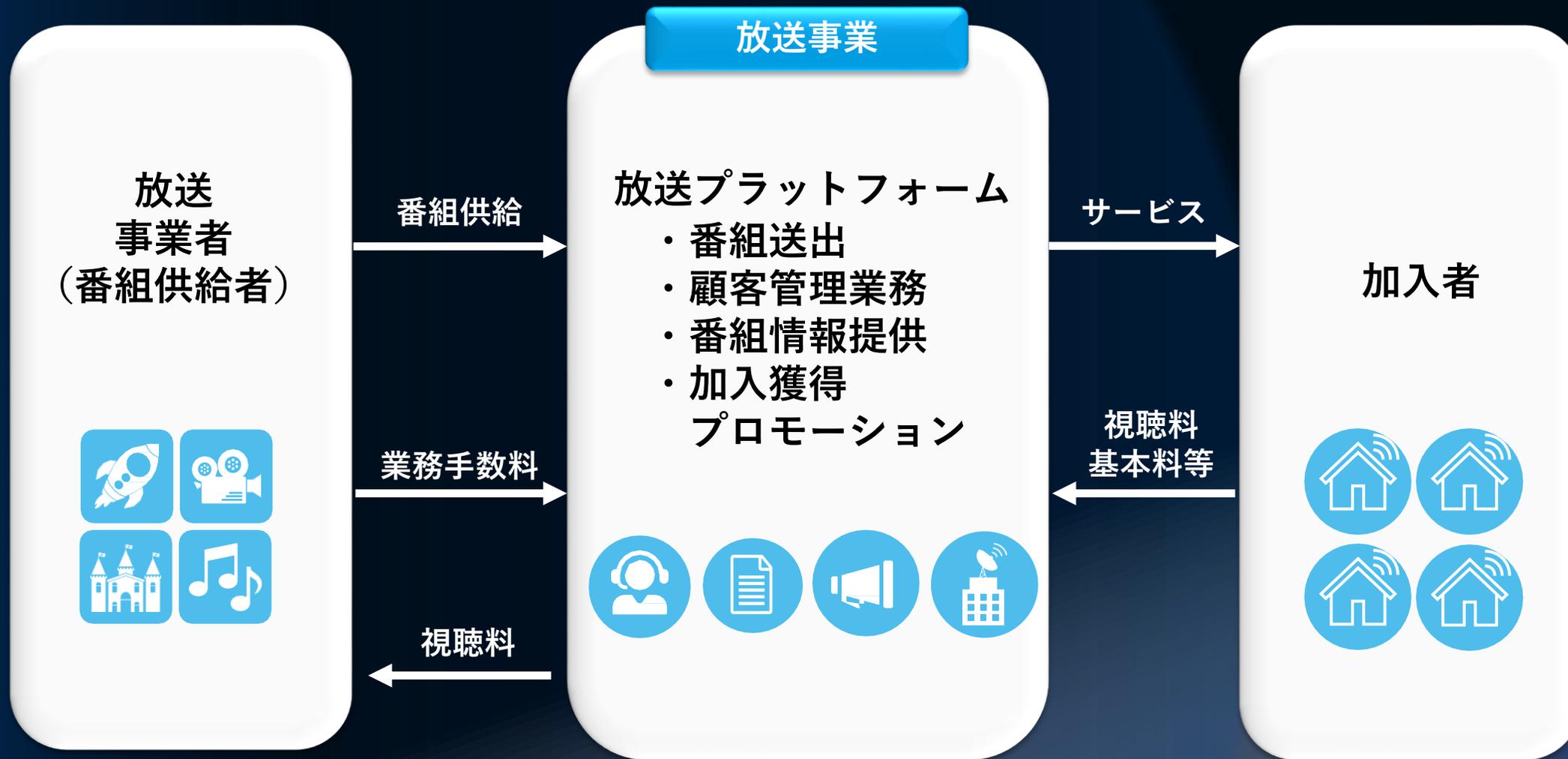
### 地上波等光再送信サービス 接続世帯数





## 事業領域：放送

- 有料多チャンネル放送スカパー！のプラットフォームとして、各放送事業者と加入者の中で、番組の放送、顧客管理、販売促進業務を実施



# 放送3サービスと動画配信

(2024年11月末時点)



## 衛星放送（アンテナ経由）

今すぐ  
番組を楽しむ

**スカパー!**

約 **70** ch



TV・レコーダー内蔵

**190**万件

視聴料のうち約30%を  
業務手数料収入として収益認識

チャンネル数と  
画質にこだわる

**スカパー!**  
プレミアムサービス

約 **130** ch



専用チューナー必要

2024年度4月より合算

**66**万件

視聴料のうち番組供給料を控除した  
約50%を視聴料収入として収益認識

## 光回線経由

アンテナ不要で  
スッキリ

**スカパー!**  
プレミアムサービス光

約 **130** ch



専用チューナー必要

## インターネット経由

スマホ・PC・タブレット・TVで  
いつでもどこでも



スカパー!に未加入のお客  
さまにもご利用いただける  
有料動画配信サービス

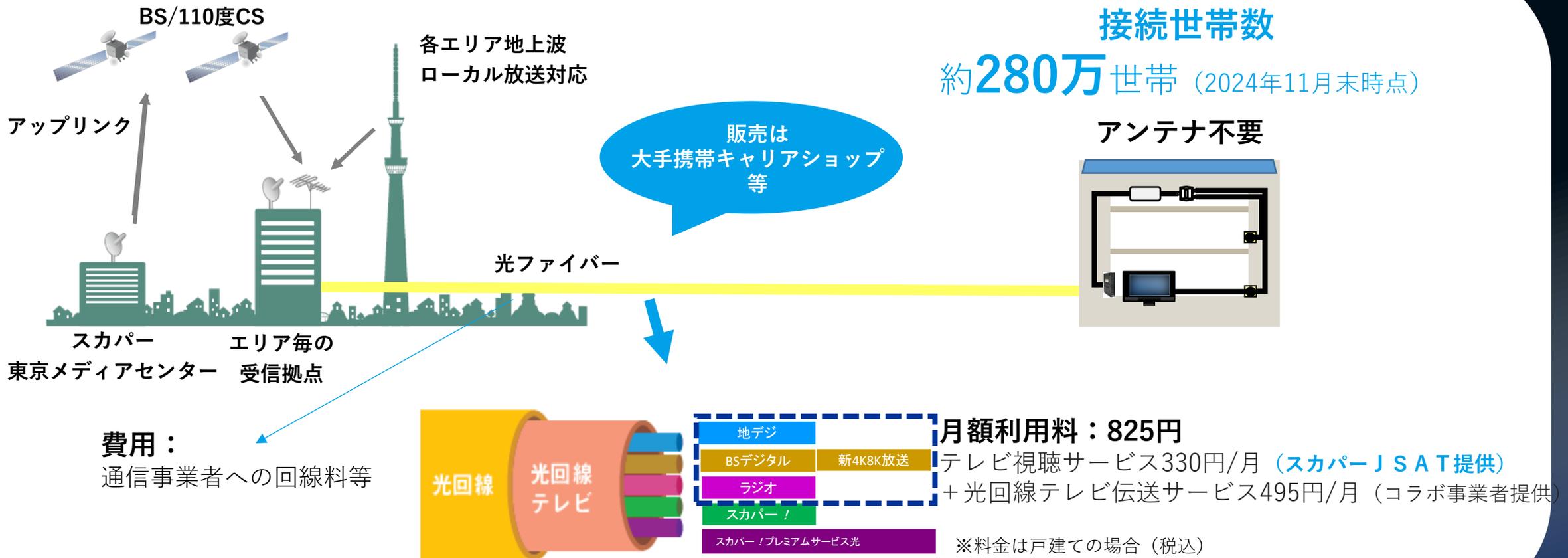


**スカパー!**番組配信

放送サービス加入者向け付帯サービス  
として無料で提供

# 事業領域：FTTH（光再送信サービス）

- 戸建・マンション向けに光回線で地上波・BS・CS放送等を再送信
- 提供エリアは37都道府県、世帯カバー率77%まで順調に拡大
- 再送信サービス導入マンションやアパートなど集合住宅契約も増加



## 事業領域：その他（メディアソリューション）



- 放送・配信事業と衛星通信事業で培った技術・ノウハウ・ファシリティを活用し、**お客様の映像中継・制作・伝送・配信・サイト運用等の課題解決を支援**
- 放送事業者に限らず、企業向けの配信システム構築・運用をワンストップで提供



スカパー東京メディアセンター



効率性・経済性・安定性を活かして企業課題を解決



1. スカパーJSAT概要
2. 経営戦略
3. 宇宙事業
4. **メディア事業**
  - ・ 概要
  - ・ **成長性**
5. サステナビリティ



# メディア事業ビジョン

人と人、企業、社会をつなぐプラットフォームとして  
多様で創造性豊かな社会の実現に貢献する

「放送 + 配信 + リアル/バーチャル」でファンの体験を拡張

光アライアンス

光再送信 / CATVパススルー

ライブ・録画 / 基幹商品

放送

多様なコンテンツ  
(スポーツ&エンタメ)

イベント・グッズ  
/ web3

リアル/バー  
チャル体験

ライブ・VOD  
ジャンル商品

配信

リアル  
/バーチャル



ファン

コネクテッドTV

ドングル / 広告PF構築

2030年  
セグメント  
利益目標

50億円

コールセンター

東京メディアセンター

事業基盤

メディア  
ソリューション

メディアHUBクラウド / 統合マスター  
/ コンテンツデータベース

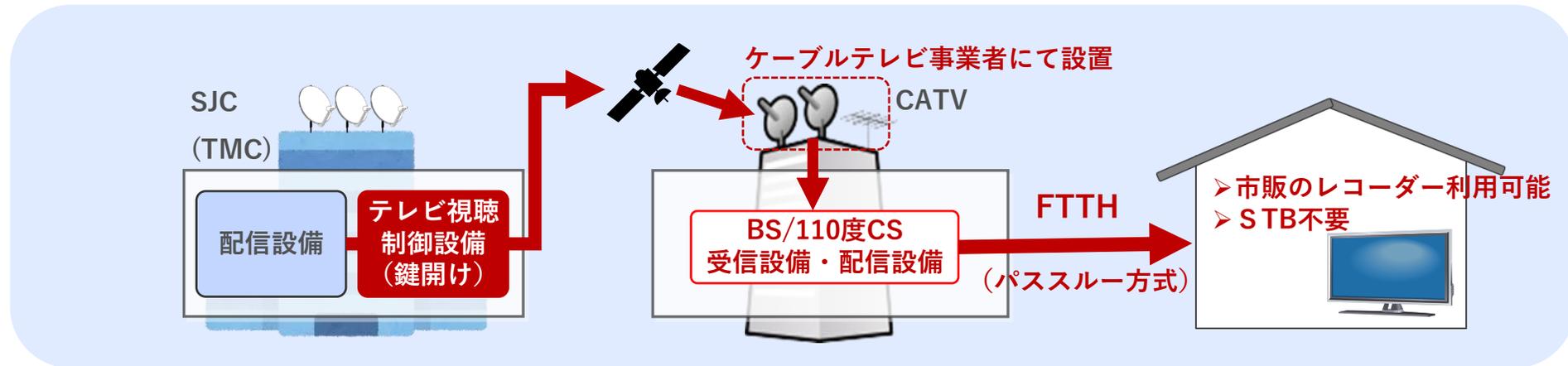
# 光アライアンス：パススルーサービス



## ■ 衛星通信と視聴鍵管理技術を使ってケーブルテレビ事業者の課題を解決

### ケーブルテレビ事業者の課題

地デジ化時等に導入された設備が更新時期を迎えており、新たな設備更新課題が顕著化  
本サービスが設備投資コストの軽減に寄与



### 実績 2024年10月末時点

■ 導入ケーブルテレビ局数 : 27局

### ケーブルテレビの現状

■ ケーブルテレビ全事業者数 : 464局

出典：令和6年3月25日総務省 [ケーブルテレビの現状と課題](#)

## コネクテッドTV

- 主要な動画サービスと番組情報(メタデータ)を連携し、ホーム画面に動画サービスを横断したコンテンツを表示。番組を探す・出会えるUXを実現
- 専用デバイスで手軽にスマートTVの機能追加・向上ができ、TVをスマート化するのに最適

## スカパー!+ 2024年10月先行サービス開始



スカパー!+ ネットスティック

### 収益モデル

- 利便性向上によるスカパー!解約抑止 (既存事業への貢献)
- CTVプラットフォーム収入 (デバイス販売収入及びデータの活用事業を想定)

### 利用者ターゲット

- スカパー!契約者 (DTH、FTTH再送信) を中心に、CATV事業者等の他事業者ユーザーや、幅広い事業者と連携した普及

## グローバルIPビジネスへの進出

- スカパー・ピクチャーズ設立
- アニメを中心としたグローバルIPビジネスを創出
- 伊藤忠グループの資源を活用した流通・商品展開



### 「チ。 -地球の運動について-」

NHK総合テレビで2024年10月より放送  
Netflix・Abemaで国内外へ配信

キャスト：坂本真綾 津田健次郎 速水奨 ほか  
アニメーション制作：マッドハウス



1. スカパーJSAT概要
2. 経営戦略
3. 宇宙事業
4. メディア事業
5. サステナビリティ



## 9つの重要課題テーマ



いつでもどこでも  
ずっとつながる



ココロ動く、  
未来へ。



地球と生きる



クリーンな  
宇宙に



未来を変える  
イノベーション



パートナーシップ



正しく  
しなやかな経営



ひとり一人が  
活躍できる会社



次世代のため  
地域のため



# カーボンニュートラル達成目標

## 2025年度

2021年度

実質再生可能エネルギー使用率

30%

2023年度

97%到達

2025年度までに

100%

を目指す



横浜



茨城



東京  
(メディアセンター、本社等)

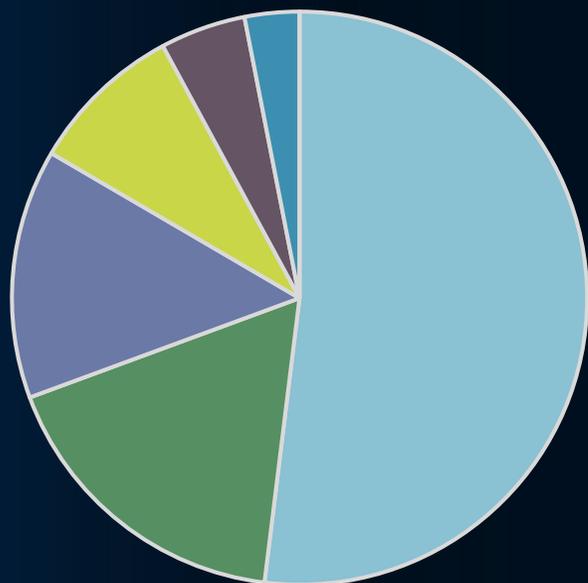
国内の主要拠点では  
実質再生可能エネルギーに  
切り替え済み



# 參考資料

# 所有者別株式分布

# 大株主一覧



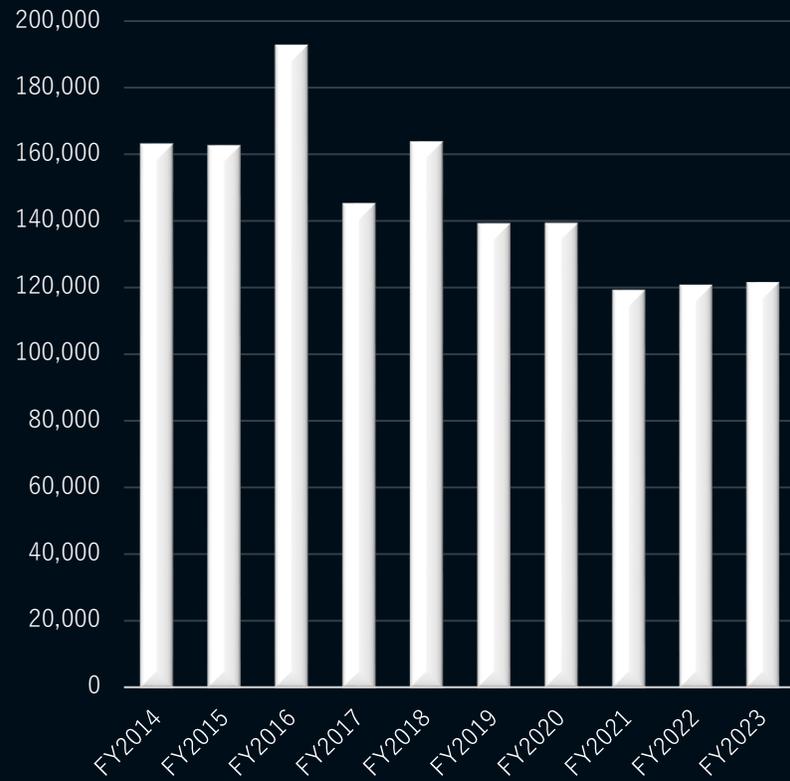
株主名	株式数	持株比率 (%)
伊藤忠・フジ・パートナーズ株式会社	76,568,800	27.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	26,793,300	9.45
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	26,057,000	9.19
日本テレビ放送網株式会社	20,891,400	7.37
株式会社TBSホールディングス	18,434,000	6.50
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	11,842,800	4.17
BNYM AS AGT / CLTS 10 PERCENT	5,527,667	1.95
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,834,700	1.00
株式会社電通グループ	2,500,000	0.88

# 連結業績推移

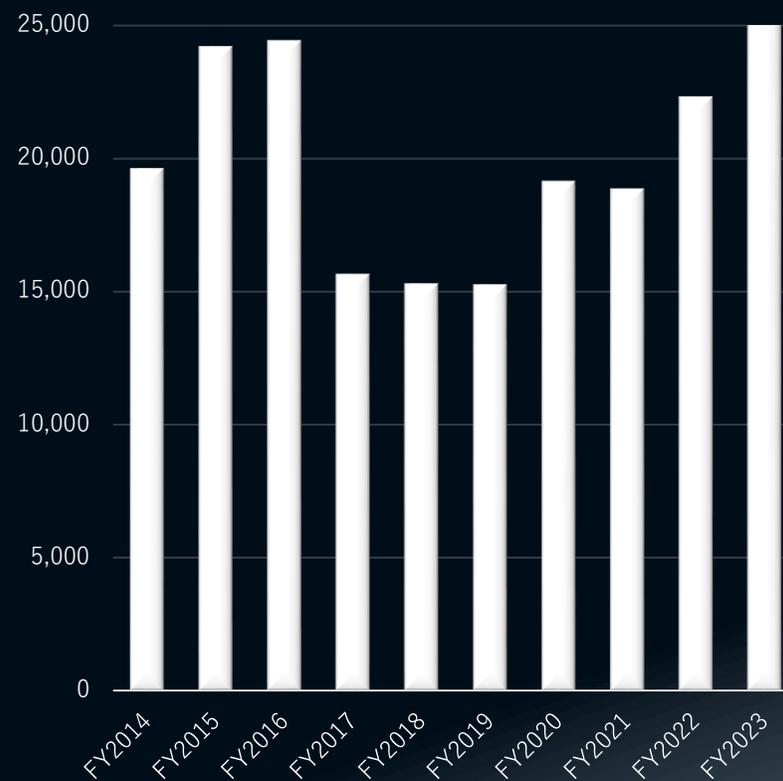


(百万円)

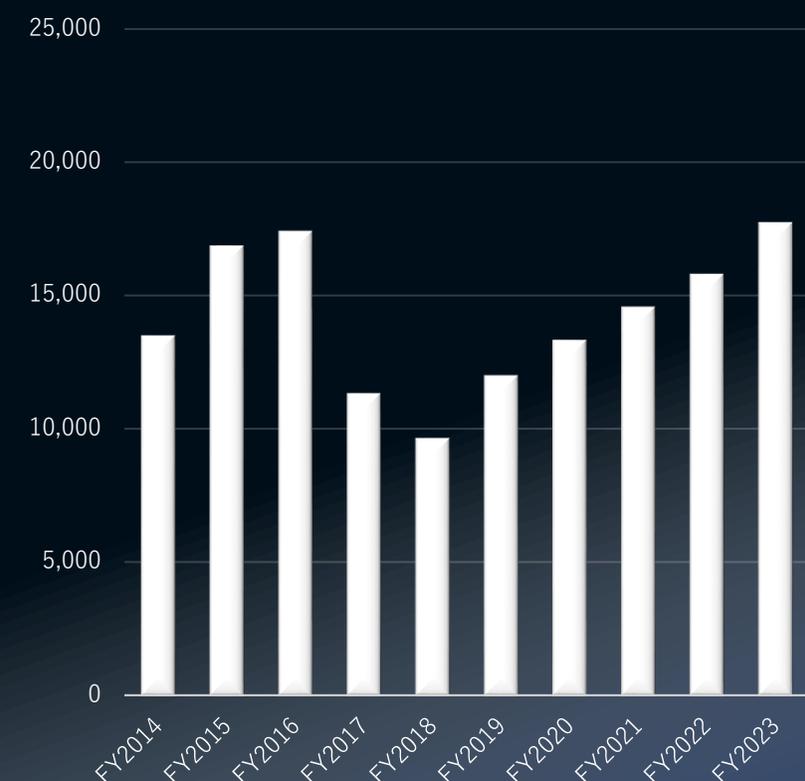
## 営業収益



## 営業利益



## 連結純利益



# セグメント別 業績推移

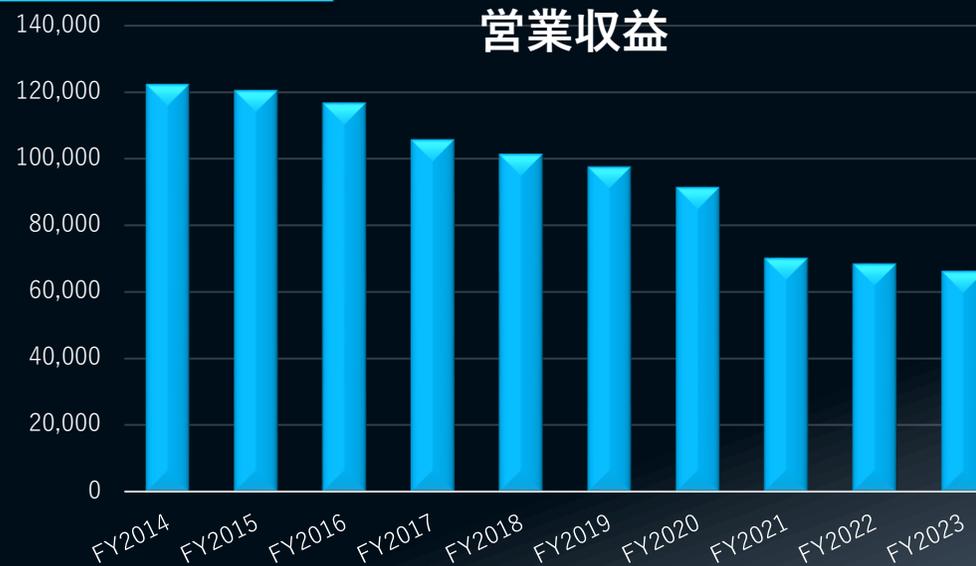


(百万円)

## 宇宙事業



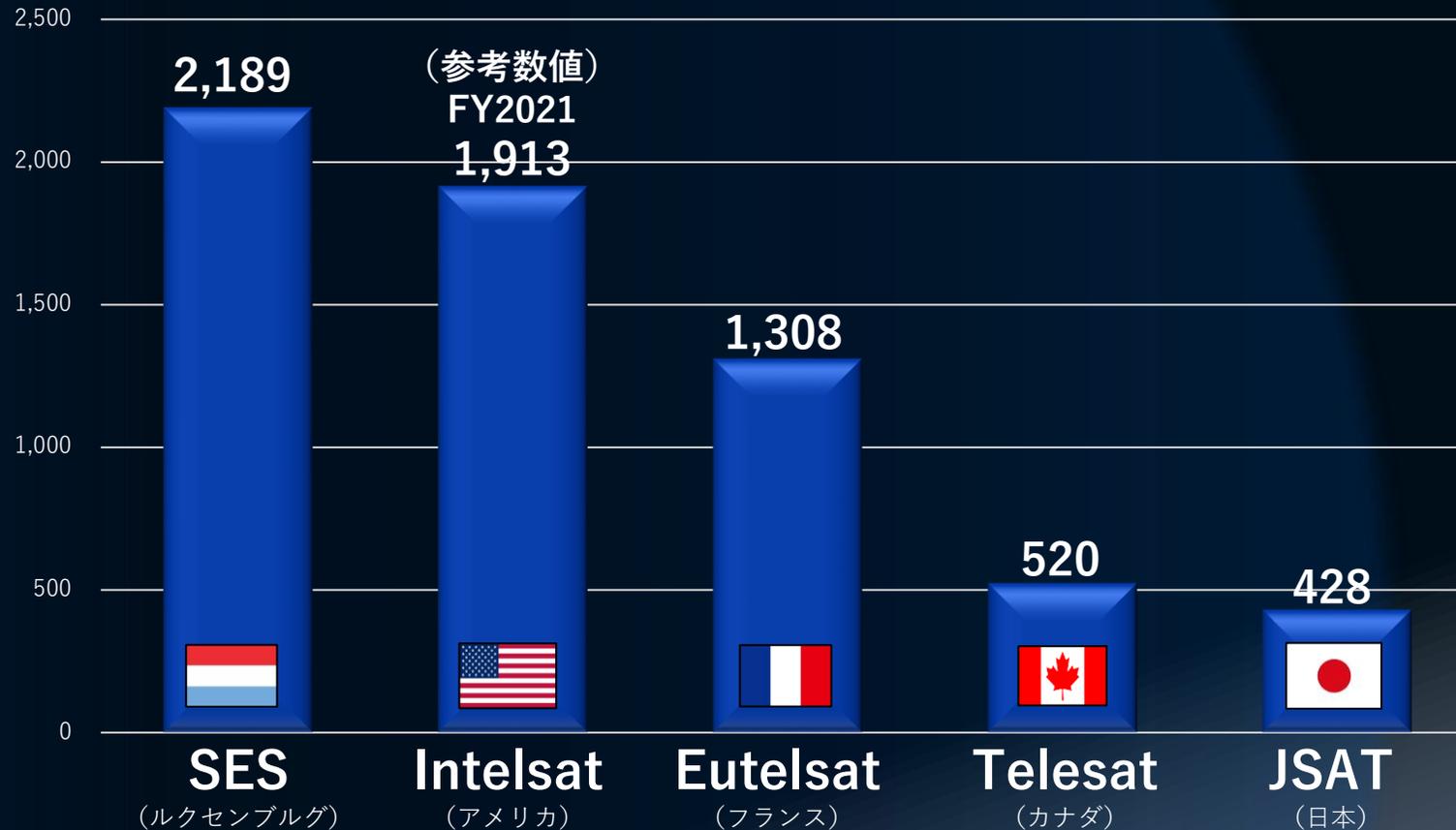
## メディア事業



# 静止衛星のグローバルオペレータ



(単位：US\$M)



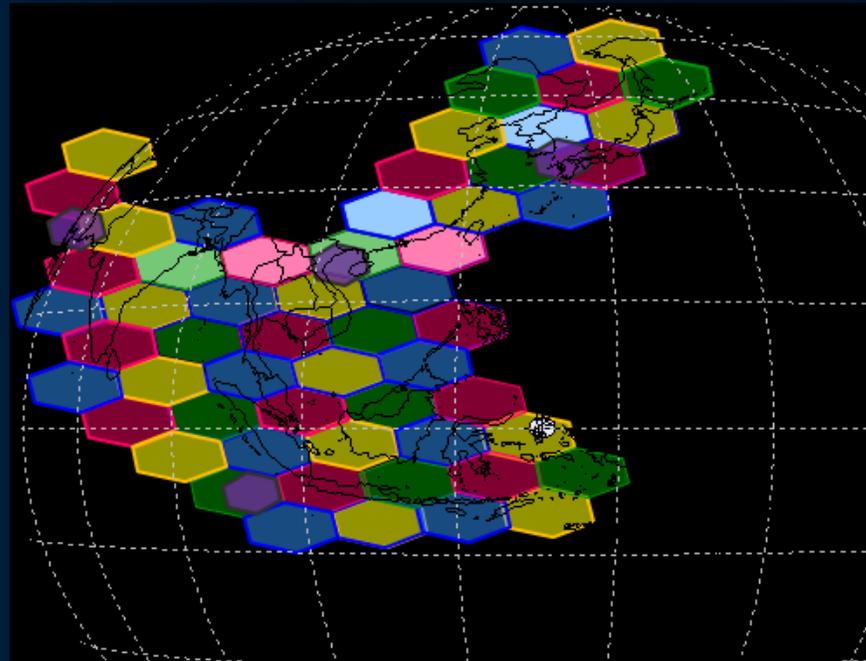
\*1 当社の売上は、2024年3月末の宇宙事業セグメントの売上。SES、Telesatの売上は2023年12月末。Eutelsatの売上は、2023年6月末。

Intelsatの売上は上場廃止に伴い非公開。参考として、2021年度（2021年3月末）の売上を記載。

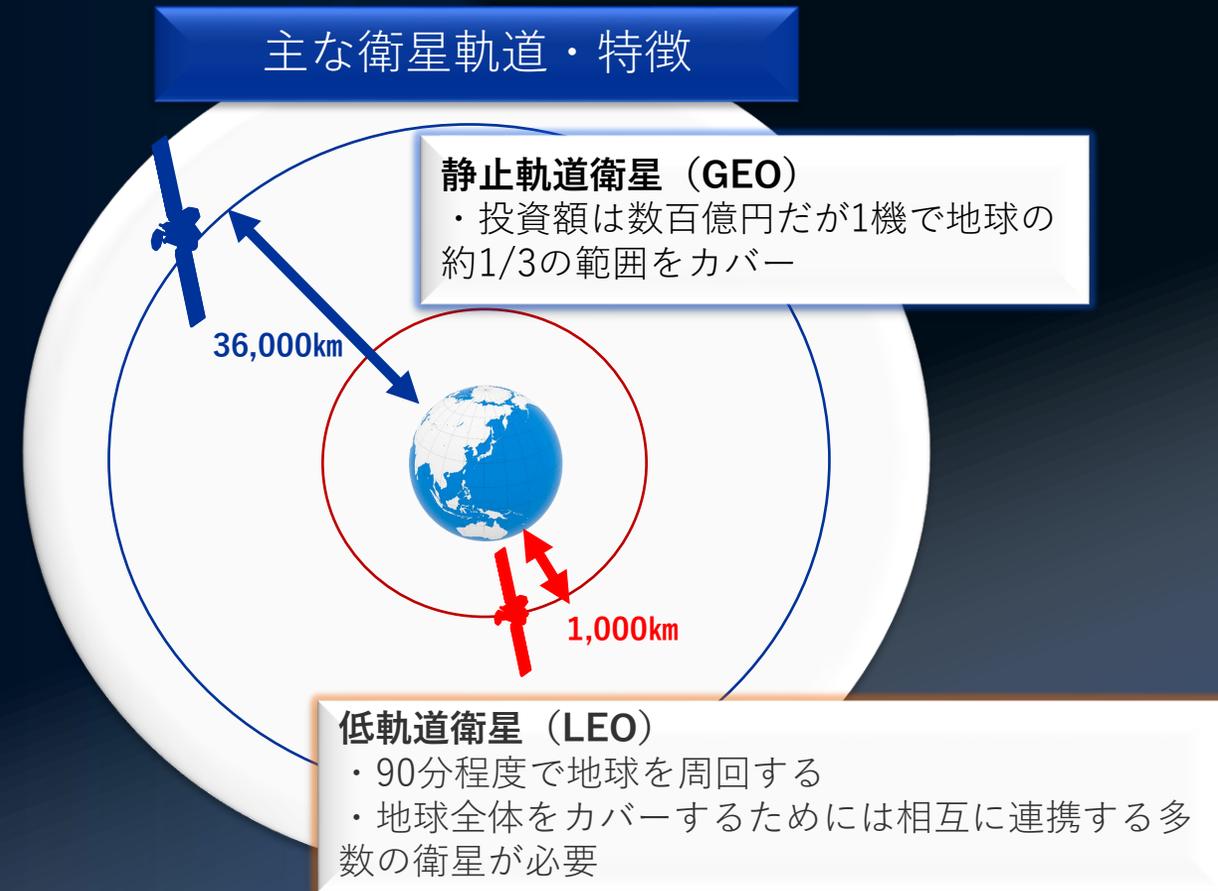
\*2 為替は、2024年3月末日の為替レートで換算。US \$ 1=EUR 0.927、CAD 1.354、JPY 151.41（参照 三菱UFJリサーチ & コンサルティング 外国為替相場(murc-kawasesouba.jp)）

# 衛星通信市場のトレンド

- ニューテクノロジー（HTS\*<sup>1</sup>、SDS\*<sup>2</sup>）による衛星通信の大容量・高速化
  - MEO（中軌道）、LEO（低軌道）コンステレーションの登場
- \*<sup>2</sup> SDS→p.66



**\*<sup>1</sup>HTS（High Throughput Satellite）**  
従来型衛星と比べ、数十倍の通信容量



# フルデジタル衛星 (SDS) とは

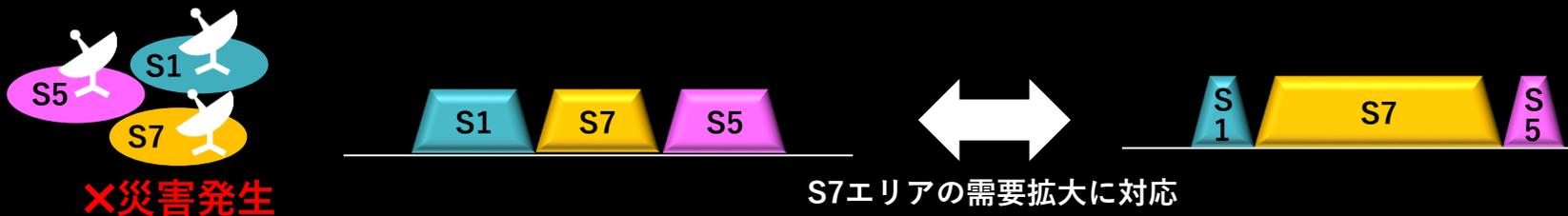


- カバレッジ、周波数配列、電力リソース配分、ビーム接続などを打ち上げ後に軌道上で変更可能なデジタルペイロードを搭載する次世代型衛星

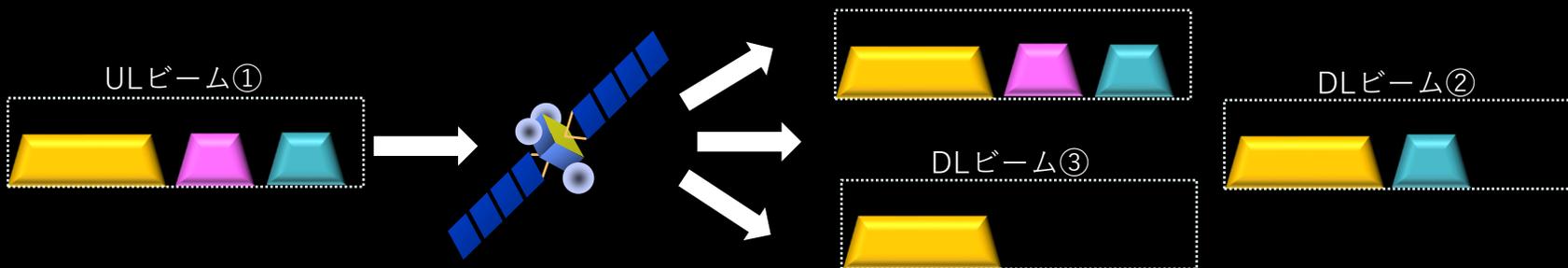
需要に応じて  
ビームカバレッジの  
変更が可能



需要の変化に対し  
各ビームの通信容量の  
変更が可能



衛星の利用状況に応じて  
効率的／最適な  
周波数利用が可能



# 低軌道衛星コンステレーション (LEO)

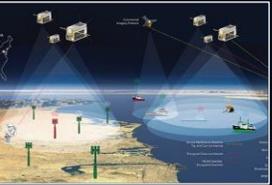


- 安価な小型衛星を大量に打ち上げ一体的に運用することで、データの取得量・通信量の増大等により地球観測や衛星通信の分野で新たな社会的価値を生み出す

	Kuiper	Starlink	OneWeb	LightSpeed
衛星機数 (計画)	3,236機	(第1世代) 4,408機 (第2世代) 7,500機	(第1世代) 648機 (第2世代) 360機	198機
サービス 周波数	Ka Band	Ku band	Ku Band	Ka Band
通信速度	約数百Mbpsクラス			
サービス 提供状況	・ 2026年～ サービス開始予定	・ サービス提供中	・ サービス提供中	・ 2027年後半 サービス開始予定
当社取組	【当社】 NTTグループと 戦略的協業に合意	【当社】 Starlink Business 2023年12月～提供		

# 地球観測技術の種類と特徴



主なセンシング技術	特徴	事業者
<p>光学</p>  <p>© 2021 Planet Labs PBC. All Rights Reserved. planet</p>	<p>一般的な写真と同様、可視光線を使って観測する。</p>	<p>Planet、BlackSky、AXELSPACE、MAXAR、AIRBUS、Satellogic、ISI など</p>
<p>SAR</p>  <p>iQPS</p>	<p>マイクロ波の反射を観測し、地形を調べる。昼夜天候を問わず観測が可能。</p>	<p>iQPS、Synspective、ICEYE、Capella Space、UMBRA、Hisdesat、EOS など</p>
<p>電波</p> 	<p>地上から発信される各種RF（Radio frequency：無線）信号を捉え、信号の発信位置を特定する。</p>	<p>HawkEye 360、Spire、Aurora Insight、KLEOS SPACE、e-GEOS など</p>
<p>Hyperspectral (ハイパースペクトル)</p>  <p>Veraverbeke &amp; Meng Herold et al., 2004</p>	<p>従来より詳細に物質を識別できる。温室効果ガス、鉱物、植生などを詳細に特定でき、環境、農林水産、防災等の様々な分野への活用が期待される。</p>	<p>Planet、GHGSat、Satellogic、Wyvern など</p>

# 日本の宇宙産業プレイヤー



地上局・軌道上サービス

衛星ビジネス（観測）

衛星ビジネス（通信）

エンターテインメント



スカパーJSAT

Infostellar

Astroscale

Space BD

PASCO

RESTEC

Synspective

日本スペースイメージング

さくらインターネット

KDDI

Softbank

衛星製造

NEC

三菱電機

ALE

SONY

その他

GITAI

ロケット製造・打ち上げ

三菱重工

IHI

インターステラテクノロジズ

SPACE ONE

QPS研究所

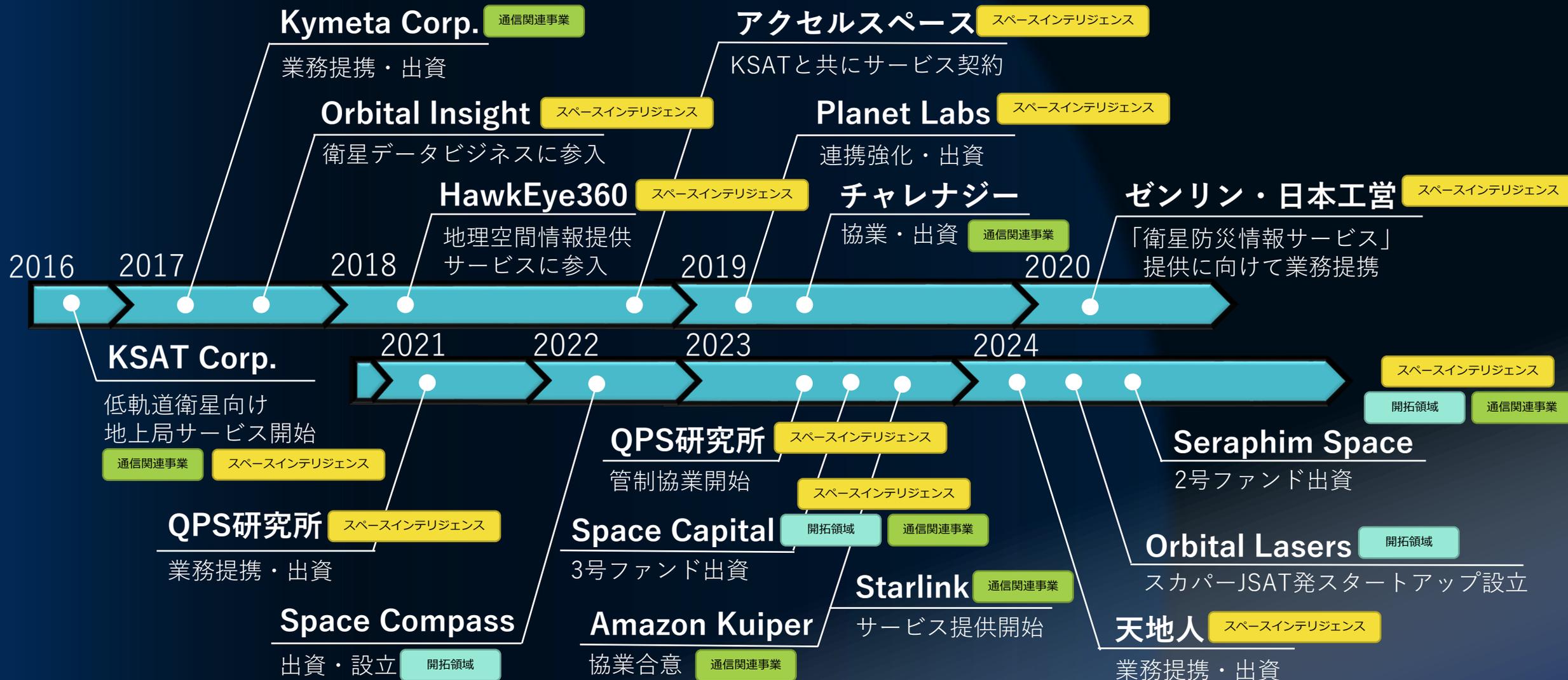
AXELSPACE

明星電気

キヤノン電子



# これまでの主な投資・協業





# 外部評価

## ■ GPIFが採用する6つの日本株ESG指数のうち、5指数に採用

- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI日本株ESGセレクトリーダーズ指数
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数
- Morningstar日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）



2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

Morningstar日本株式 ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）

## ■ その他外部からの評価



えるぼし認定3つ星

くるみん



Climate Change : A-

DISCLAIMER STATEMENT THE USE BY SKY Perfect JSAT Holdings Inc. OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES ("MSCI") DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF SKY Perfect JSAT Holdings Inc. BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS, AND ARE PROVIDED 'AS-IS' AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.

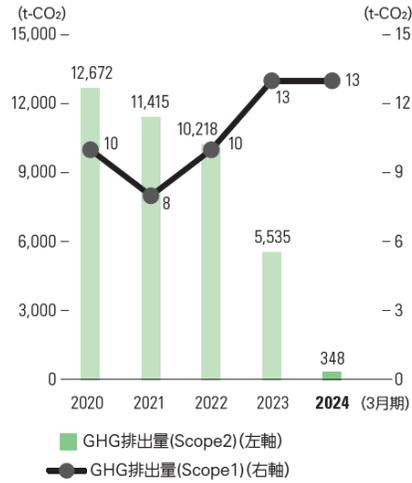
# ESGデータ



## エネルギー使用量



## GHG排出量



## 廃棄物総排出量

2024年3月期(2023/4/1~2024/3/31) (t)	
産業廃棄物等総排出量計	79,081
一般廃棄物等総排出量計	62,059
総排出量合計	141,140

(当社および国内連結子会社のうち(株)スカパー・カスタマーソリューションズの一般廃棄物量を除く)

2023年度実績の各ESGデータは  
当社グループサイトにて公開しています。  
<https://www.skyperfectjsat.space/sustainability/esg/>

Scope1: 温室効果ガスの排出源からの直接的な大気中への温室効果ガスの排出量  
Scope2: 他者から供給を受けた電気、熱の利用により発生した電気、熱の生成段階でのCO<sub>2</sub>排出量  
(サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(環境省・経済産業省))  
GJ(ギガジュール:エネルギー量の単位)、t-CO<sub>2</sub>(重量トン:エネルギー使用量をCO<sub>2</sub>基準で換算して重量表示)

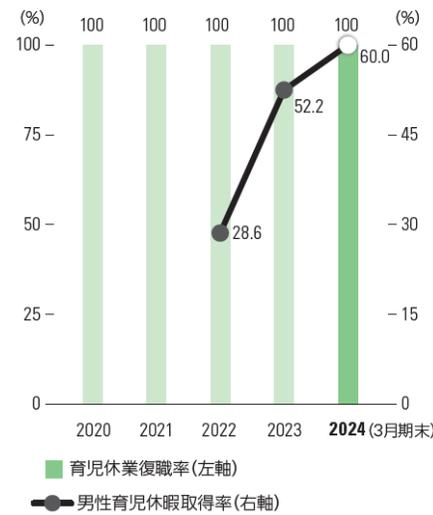
## 正社員数・平均年齢



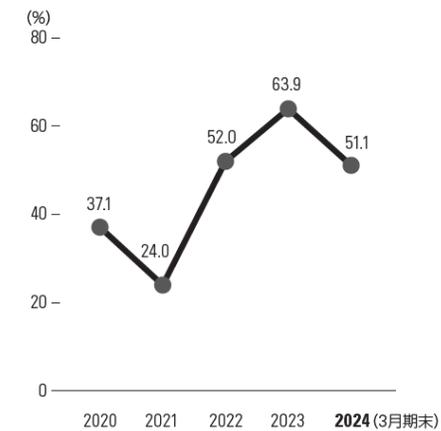
## 女性管理職数・比率



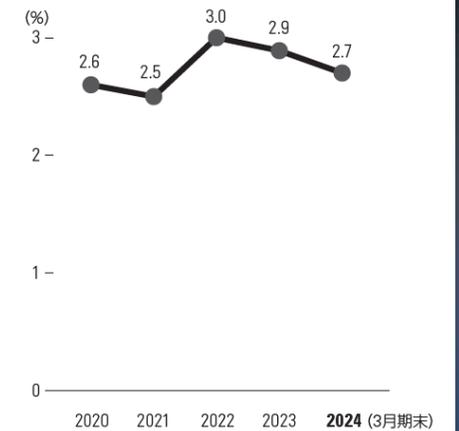
## 育児休業復職率・男性育児休暇取得率



## キャリア採用率



## 障がい者雇用率





# 将来の見通しに関する記述

本説明資料に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。

これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。このようなリスクや不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものには、以下のようなものが含まれます。なお、リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意下さい。

## 事業全般

- 事業投資等に関するリスク
- 事業上の法的規制等に関するリスク
- 個人情報及び重要情報の流出や取扱い及びサイバーセキュリティに関するリスク
- 大規模災害、新型感染症等による事業継続に関するリスク

## 宇宙事業

- 衛星通信市場における競争力低下のリスク
- 通信衛星調達に関するリスク
- 通信衛星の運用に関するリスク

## メディア事業

- 有料多チャンネル事業の事業性低下に関するリスク
- 不正視聴に関するリスク
- 顧客管理システムに関するリスク



本資料に関するお問い合わせは、下記担当部までお願い致します。

株式会社スカパーJ S A Tホールディングス

広報・IR部

TEL : 03-5571-1515、FAX : 03-5571-1760

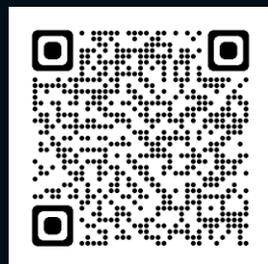
E-Mail: [ir@skyperfectjsat.co.jp](mailto:ir@skyperfectjsat.co.jp)

メール配信サービスはこちらよりご登録ください

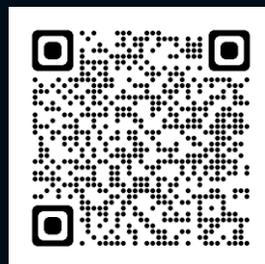
<https://www.skyperfectjsat.space/ir/mail/>

IR、企業広報に関するプレスリリース及びイベント等を電子メールでお届けします

X



LinkedIn



Youtube

